

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

**平成 27 年度～令和元年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 東京医科大学 2 大学名 東京医科大学
- 3 研究組織名 小胞体創薬研究センター
- 4 プロジェクト所在地 東京都新宿区新宿6-1-1
- 5 研究プロジェクト名 RNA メタボロームによる細胞内小胞体の解明に基づいた革新的がん治療法の開発
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
黒田 雅彦	分子病理学分野	主任教授

- 8 プロジェクト参加研究者数 39 名
- 9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会
- 10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
黒田 雅彦	分子病理学分野・主任教授	Non-codingRNA の単離と診断、治療法の開発	プロジェクトの立案と総括
大屋敷一馬	血液内科学分野・主任教授	microRNA-細胞内分泌小胞を応用した医薬品の開発	個別化医療の確立
池田 徳彦	呼吸器・甲状腺外科学分野・主任教授	RNA メタボロームを基盤としたがん個別化・最適化治療法の開発	個別化医療の確立
横須賀忠	免疫学分野・主任教授	分泌小胞イメージングによるがん免疫チェックポイント機構の解明	免疫チェック機構の解明
梅津 知宏	血液内科学分野・講師	分泌小胞による薬耐性がん(がん幹細胞)の微小環境の解明	がん微小循環の解明
(共同研究機関等)			

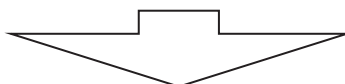
法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
先端分子探索寄附講座・助教	血液内科学分野・講師	梅津 知宏	がん微小循環の解明

(変更の時期:平成 31 年 3 月 31 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
先端分子探索寄附講座・助教	先端核酸医療応用講座・准教授	梅津 知宏	がん微小循環の解明

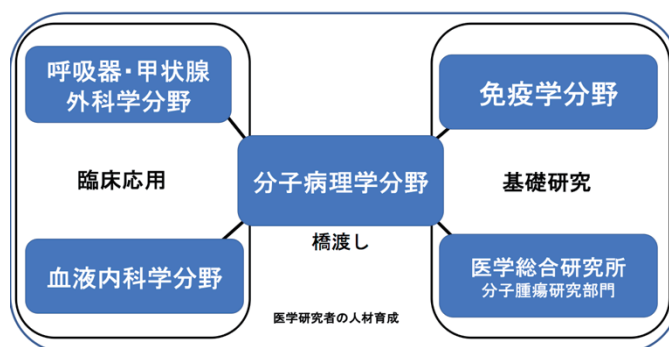
11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

我が国のがんによる死亡者数は年間 30 万人を超え、死亡原因の第1位を占めている。また、未曾有の高齢化社会を迎え、がん死が増加し、社会保障費が増大する中で、豊かな社会を今後も継続し発展していくためには、革新的なアプローチが必要であり、新たなイノベーションが大学に求められている。そのために、我々は(1)現在 20%に過ぎないがん検診率を上げ、(2)安価で効果が高い次世代医薬品の実用化を目指す。そのことが、健康寿命をのばし、医療経済的にも患者 QOL の改善にも即効性が高いと考える。そこで我々は、本プロジェクトで、RNA メタボロームによる細胞内小胞体の解明とその臨床応用の研究を行う。近年 miRNA をはじめとする non-coding RNA が、様々な生命活動に関与し、多くの疾患で、これら RNA の異常が明らかになり、診断・治療標的分子としてクローズアップされている。また、細胞の分泌小胞は、多彩な生理作用を有しているが、この分泌小胞内の 1 つであるエクソソームには miRNA やペプチドが含有されている。近年腫瘍特異的に分泌される、miRNA 含有エクソソームが、腫瘍の微小環境や幹細胞機能の獲得、腫瘍免疫、薬剤耐性に重要な役割を果たすことが示された。これらの複合的な RNA メタボロームの制御は、診断・治療に大きな可能性を有しており、本研究では、基礎医学分野、医学総合研究所、臨床医学分野、および製薬企業(BONAC、東レ)と連携を密にして、臨床応用を目指していく体制を構築する。

(2) 研究組織

本プロジェクトでは、基礎医学分野 2 部門(分子病理学分野、免疫学分野)、臨床医学 2 部門(血液内科学分野、呼吸器・甲状腺外科学分野)の連携を行い、基礎と臨床医学の融合とともに、産学連携による人的交流、技術支援などを積極的に行い、図に示した通り研究基盤構築を行う。



(3) 研究施設・設備等

世界に先駆けて、細胞内小胞の可視化のために、1 細胞 1 分子イメージングを可能とする構

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

造化照明法 N-SIM と全反射蛍光顕微鏡の融合システムを構築した。本システムをもとに、新宿キャンパス、中央校舎 4 階に小胞体創薬研究センターを整備した。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<優れた成果が上がった点>

本事業により研究基盤が強化された共同研究の成果を中心に研究成果を記載する。それぞれのテーマは縦割りでなく密接に関係しているが、役割分担と共同研究体制を明確化するため、研究組織に示した各分野も付記し、研究機器整備に伴う共同研究の進展状況についても報告する。()内は対応する 13,14 の番号で、それぞれ論文(*)、学会発表(**)、特許(***)を付した。

【新規の non-codingRNA の解明と新たな miRNA の発現機構の解明】分子病理学分野

①新規の non-codingRNA の単離

microRNA や lincRNA などの non-coding RNA(ncRNA)の異常は疾患の発生に深く関与する。これらの RNA を標的とする治療戦略は、次世代の分子標的治療薬として期待されている。このような背景の中、本事業では、次世代シーケンサーを用いて、肺がん細胞株 H1299 より網羅的 RNA 解析を行った。その結果、幾つかの、安定なヘアピン構造を示す RNA の転写産物の単離に成功した。さらにこれらの転写産物から seed 配列を目印に標的遺伝子を予測したところ、がん遺伝子、がん抑制遺伝子を始め、多数の遺伝子を制御する事が判明した。我々は、これらの ncRNA を endogenous guide hairpin RNA(eghRNA)と命名した(19*、74**、103**、133**、144**)。これらの新規の ncRNA である eghRNA の生理機能解析や疾患における検討は、新たな疾患の分子メカニズムを切り開くと共に、創薬が困難であった各種疾患に対して治療を提供することを可能にする。さらに、これらの eghRNA を欠失した動物を作製し、その生理的機能を解明する事を試みている。(達成率 80%)

②DICER1 症候群発症機構の解析

DICER1 症候群は、*DICER1* 遺伝子の変異を原因とし、小児期から成人期において様々な臓器で悪性腫瘍を発生する遺伝性疾患である。2009 年に胸膜肺芽腫患者の *DICER1* 遺伝子に高頻度に変異が発見され、本遺伝子変異が原因であることが明らかになった。その後、嚢胞性腎腫、ウィルムス腫瘍、肝細胞癌など、多くの難病で *DICER1* 遺伝子変異が見つかり、DICER1 症候群と呼ばれるに至っている。DICER1 は miRNA のプロセッシングに必須であることから、miRNA の発現異常が原因と予想されているが、動物モデルが無いこともあり、発症機構は明らかでない。そこで我々は、世界に先駆けてコンディショナルに DICER1 変異体を発現するマウスを作成した。肝細胞特異的に DICER1 変異体を発現するマウスで肝癌が発症したことから、世界初の DICER1 症候群モデル動物として解析中である(134**、205**、212**、229**、245**)。(達成率 70%)

③新規 miRNA の機能解析

我々は、強力ながん抑制 microRNA (miRNA)として知られる miR-34a を導入した肺がん細胞において、多くの遺伝子の発現が誘導されることに注目し、miR-34a による遺伝子発現誘導機構の解析を行った。その結果、miR-34a は肺がん細胞において、がん抑制遺伝子として知られる BLU (ZMYND10)の転写を誘導していた。その際、miR-34a は AGO1 および AGO2 と複合体を形成し、BLU プロモーターから発現する新規の lincRNA に結合することで、BLU mRNA の転写を誘導していることを明らかにした(136**、163**、211**、226**、228**、247**)。これまでは、miRNA は、一般的に遺伝子の発現を抑制するだけと考えられていたしかし、今回の研究成果により、miRNA が、lincRNA の発現と制御によって、特定の遺伝子発現

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

を誘導する機構が明らかになった。この発見は、革新的ながん治療の標的として期待出来る。(達成率 90%)

【microRNA-細胞内分泌小胞を応用した診断法の開発】

①造血器腫瘍にける成果: 血液内科学分野

造血器腫瘍における細胞内および細胞外小胞体 miRNA の臨床的意義を明らかにし、診断および治療に結び付く情報を得ることを目的とした。本事業として慢性骨髄性白血病の治療反応性を規定する末梢血単核球 miRNA-148b の低下および細胞外小胞体 miRNA-215(56*, 67**, 80**)の意義を報告すると共に、TKI 治療薬中止後にみられる副作用と関連する血清中の細胞外小胞体 miR-140-3p を明らかにした(45*, 60*)。また、造血器腫瘍のがん微小環境における細胞間相互作用に細胞外小胞体が重要な役割を担うことに注目し、骨髄間質細胞由来の細胞外小胞体 miR-101 が骨髄異形成症候群の進展に関与していることを明らかにした(125*)。現在は移植片対宿主病(GvHD)の発症に関わる小胞体 miRNA の同定を行い(97*)、GvHD の発症予測、重症度判定への臨床応用を試みている(達成率 80%)。

②肺がんにおける成果: 呼吸器・甲状腺外科学分野

肺癌患者におけるリキッドバイオプシーの有用性を検討することを目的とした。肺癌の診断で手術が行われた手術症例を対象に、次世代シーケンサー(NGS)およびデジタル PCR を用いて血清と手術検体での検体種別の体細胞変異検査結果を比較した。IA-III A 期の手術切除標本とマッチした患者血清 150 検体を収集し、NGS による targeted sequencing を実施した。手術標本での結果と血清を用いた結果を比較検討した。腫瘍組織において検出された遺伝子変異とその検出頻度は、EGFR (37%), TP53 (39%), KRAS (10%)であった。血清を用いた検討では、150 検体中 149 検体で評価可能であり、検出された遺伝子変異およびその頻度は、EGFR (3/150), TP53 (5/150), PIK3CA (1/150)であった。droplet digital PCR を用いて再解析を行い、NGS による検出率と比較した結果、98.8%の高い一致率を得た。同症例における血清中の体細胞変異検出率を規定する臨床病理学的因子を検索した結果、腫瘍の体積が規定因子であることが示された。手術の対象となる比較的早期の非小細胞肺癌患者においては、血清中の体細胞変異検出率は低く、腫瘍体積が血清を用いた体細胞変異検出の規定因子になると考えられた。手術適応をなす早期肺癌を対象とした研究では検出力が低いことが判明し、リキッドバイオプシーが有効であるかを検討するために進行した肺癌症例を対象に研究を行った。肺癌が疑われる症例に対して経気管支鏡下生検が施行された症例を対象に同意を得て、血液、組織検体を同時に採取した。それぞれの検体で Cobas EGFR 変異検出キット v2.0 を用いて EGFR 遺伝変異を測定した。測定可能であった 77 例を対象に比較した。組織、血液の EGFR 遺伝子変異はそれぞれ 37.7, 16.9%であった。血液を用いた検査では標準的な検査法である組織を用いた検査と比較して、陽性一致率は 42.1%、陰性一致率は 97.5%で、全体で 79.7%であった。血液を用いた検査でも有効であるが陽性一致率が十分でないことを理解した上で検査を行うことが重要であることが示された。

(達成率 80%)

【分泌小胞イメージングによるがん免疫チェックポイント機構の解明】免疫学分野

免疫チェックポイント阻害療法は発明から瞬く間にがん臨床における標準療法となったが、一方でその分子機構は未解決な点が多く残されている。本プロジェクトでは免疫チェックポイント分子の細胞内局在とシグナル伝達に関して、1)細胞骨格、2)糖鎖修飾、3)細胞内小胞輸送の三つの視点から研究を遂行すると共に、免疫チェックポイント分子 4)LAG3 と 5)TIGIT の

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

PD-1 とは異なる免疫抑制機能を解明し、また次世代がん治療法としても期待される 6)キメラ抗原受容体 CAR と免疫チェックポイント分子とのクロストーク機構を明らかにした。1)ではこれまで我々が解明してきた T 細胞受容体シグナルソーム「TCR マイクロクラスター」が、接着分子やアクチンを動員した新たな細胞骨格構造「マイクロシナプス」として T 細胞の活性化を制御することを明らかにした。2)では PD-1 の細胞表面発現に、小胞内での PD-1 の N-グリカンのフコシル化が重要なことを明らかにした。3)では本研究支援の整備機器として、1 細胞 1 分子イメージング構造化照明法 N-SIM と全反射蛍光顕微鏡の融合システムを構築し、ビデオレートでのエクソソームの 1 分子観察に成功した。4)では LAG3 のトロゴサイトーシスによる抗原提示細胞からの MHC クラス II の取り込みおよび小胞輸送の促進と免疫抑制機能を明らかにした。5)では TIGIT の分子高による標的活性化受容体の選択と免疫抑制の質の相違を解明している。6)では CAR の細胞外ドメインのデザインにより PD-1 抑制の受けやすさや、エンドサイトーシスと小胞輸送にも差があることを明らかしつつある。これらの結果は、免疫チェックポイント分子の細胞内局在とシグナル伝達機構を理解し、新たなメカニズムに基づいた免疫チェックポイント阻害療法の進展を期待させる結果である。(達成率 80%)

【分泌小胞による薬耐性がん(がん幹細胞)の微小環境の解明】血液内科学分野・先端核酸医療応用講座

本プロジェクトでは微小環境側、特に骨髄間質細胞が放出する細胞外小胞(EV)の生物学的意義を明らかにするとともに、それらを標的または応用した新規の EV-based therapy の開発を目指した。若年健常者(19 歳、20 歳)、高齢健常者(68 歳、72 歳)由来の骨髄間質細胞の培養上清から EV 分画を単離してその機能を解析した結果、高齢健常者由来と比較して、若年健常者由来骨髄間質細胞が放出する EVs では多発性骨髄腫細胞が誘導する血管新生を抑制する能力(抗腫瘍血管新生能)が高かった。さらに、EV 内 miRNA のプロファイリングを行った結果、若年健常者由来骨髄間質細胞に特異的な4種の EV 内 miRNA(miR-340, miR-365, miR-374a, miR-411)を見出した。これらの miRNA のうち、miR-340 と miR-365 の合成 miRNA を高齢健常者由来骨髄間質細胞が放出した EVs に直接的に導入すると、若年健常者由来骨髄間質細胞が放出する EVs と同等の抗腫瘍血管新生効果を有していた。本研究では、EV 治療のソースである骨髄間質細胞の加齢性変化に着目し、新規技術を用いて「EV の若返り」による機能強化を実現し、その作用機序を明らかにした(46*)。また、多発性骨髄腫をモデルに、がん患者由来骨髄間質細胞およびそれらが放出する EV の機能に関する研究も進め、多発性骨髄腫患者由来骨髄間質細胞(CAF)が特異的に miR-10a を EV に封入して排出していること、さらには miR-10a の排出を阻害すると CAF がアポトーシスを起こすことを見出した(118*)。このことから、CAF を含むがん微小環境側を標的とした soil-targeted therapy への応用が考えられ、今後は EV のデリバリーに関する問題点を解決しながらがんの次世代 EV-based therapy へと発展させていく。(達成率 80%)

【革新的な miRNA 補充療法の開発】分子病理学分野

miRNA 補充療法はがん化の過程で発現が低下したがん抑制性の miRNA を細胞外から補充することで、その miRNA が標的とする複数のがん遺伝子の発現を抑制する革新的な治療法であるが、実用化には核酸に対する免疫応答や標的臓器に伝達するための技術の開発が必須である。この点に関して、本事業では、ヘアピン型やマッチ型の miRNA の開発に成功した(1*、4*、14*、15*、40*、42*、111*、特許 2***、特許 3***、4***、5***)

<課題となった点>

本プロジェクトにおいて、いずれの研究項目においても達成度は高いと評価された。しかし、

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

最終的な出口戦略が遅れている点は指摘された。特に新規のリキッドバイオプシーとして期待された、血小板由来の miRNA の解析が期待された成果を得る事が出来なかった。今後は、ゲノム情報を含めた NGS のデータの効果的な解析に注力を注ぐ。また、新規のリキッドバイオプシーとして、non-codingRNA の解析を今後行っていく。

<自己評価の実施結果と対応状況>

毎月 1 回の研究進捗会議で進捗状況を報告し、達成率、費用対効果について審議し、必要に応じて研究計画の軌道修正を行ってきた。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

平成 30 年 1 月 31 日に外部評価委員 2 名を招いて研究成果の中間報告会(公開)を開催し、外部評価委員からは A 評価を得た。また、令和 2 年 3 月 11 日に予定された最終報告会(公開)は、COVID-19 ウイルスの感染の拡大により中止された。今後、書面での評価を行い、可能であれば、公開シンポジウムを開催する予定である。

<研究期間終了後の展望>

EV や non-codingRNA に関する基盤研究を発展させ、核酸医薬品や EV を用いた医薬品開発およびリキッドバイオプシーの応用が最も期待される。

<研究成果の副次的効果>

1. 特許出願:「がんの罹患の可能性の試験方法およびそれに用いる試験試薬」発明者:大屋敷純子、梅津知宏 出願人: 東京医科大学 出願番号: 特願 2017-083898 国内外の別: PCT
2. 特許出願:「遺伝子発現制御のための人工マッチ型 miRNA およびその用途」出願番号:特願 2015-555078 (国内書面差出日:2016(H28)年 6 月 23 日) ※ PCT/JP2014/084724 の日本国内移行に係る出願
3. 特許出願:「遺伝子発現制御のための発現制御核酸分子およびその用途」発明者:黒田雅彦ほか 出願人: 東京医科大学 出願番号: 特願 2016-168499
4. 特許出願:「プロレニン遺伝子またはプロレニン受容体遺伝子の発現を抑制する一本鎖核酸分子およびその用途」発明者:黒田雅彦 出願日:2016/12/29 出願番号: PCT/JP2016/089216
5. 特許出願:「核酸用担体および核酸の投与方法」発明者:黒田雅彦、梅津知宏、大野慎一郎 出願日:2019 年 7 月 5 日 特願 2019-126172

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) miRNA (2) エクソソーム (3) 核酸医薬品
 (4) リキッドバイオプシー (5) _____ (6) _____
 (7) _____ (8) _____

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

1. *Toyono T, Usui T, Yokoo S, Taketani Y, Nakagawa S, Kuroda M, Yamagami S, Amano S. Angiopoietin-like 7 is an anti-angiogenic protein required to prevent vascularization of the cornea. PLoS One. 2015 Jan 26;10(1):e0116838. doi: 10.1371/journal.pone.0116838. eCollection 2015.
2. Nakama T, Yoshida S, Ishikawa K, Kobayashi Y, Zhou Y, Nakao S, Sassa Y, Oshima Y, Takao K, Shimahara A, Yoshikawa K, Hamasaki T, Ohgi T, Hayashi H, Matsuda A, Kudo A, Nozaki M, Ogura Y, Kuroda M and Ishibashi T. Inhibition of choroidal fibrovascular membrane formation by new class of RNA interference therapeutic agent targeting periostin. Gene Ther. 2015 22(2):127-37. doi: 10.1038/gt.2014.112.
3. Yoon JH, Sudo K, Kuroda M, Taniguchi T, Kato M, Lee I, Han JS, Nakae S, Imamura T, Kim J, Ji Ju JH, Kim DK, Matsuzaki K, Weinstein M, Nakao A, Matsumoto* I, Sumida T, Mamura M. Phosphorylation status determines the opposing functions of Smad2 and Smad3 as STAT3 cofactors in TH17 differentiation. Nature communications. 2015 21;6:7600. doi: 10.1038/ncomms8600.
4. *Takanashi M, Sudo K, Ueda S, Ohno S, Yamada Y, Osakabe Y, Goto H, Matsunaga Y, Ishikawa A, Usui Y, Kuroda M. Novel Types of Small RNA Exhibit Sequence- and Target-dependent Angiogenesis Suppression Without Activation of Toll-like Receptor 3 in an Age-related Macular Degeneration (AMD) Mouse Model. Mol Ther Nucleic Acids. 2015 Oct 20;4:e258. doi: 10.1038/mtna.2015.34.
5. Braulke F, Platzbecker U, Müller-Thomas C, Götze K, Gotze K, Germing U, Brümmendorf TH, Nolte F, Hofmann W-K, Giagounidis AN, Lübbert M, Greenberg PL, Bennett JM, Solé F, Mallo M, Slovak ML, Ohyashiki K, Le Beau MM, Tüchler H, Pfeilstöcker M, Nösslinger T, Hildebrandt B, Hindebrandt B, Shirmeshan K, Aul C, Stauder *, Sperr WR, Valent P, Fonatsch C, Trümper L, Haase D, Schanz J: Validation of cytogenetic risk groups according to International Prognostic Scoring Systems by peripheral blood CD34⁺ FISH: Results from a German diagnostic study in comparison with an international control group. Haematologica, 2015, 100(2): 205-213.
6. Saito Y, Gotoh M, Katagiri S, Ohyashiki K: Diffuse large B-cell lymphoma resembling a metastatic liver tumor. British Journal of Haematology, 2015, 168(1):1.
7. Braulke F, Platzbecker U, Müller-Thomas C, Götze K, Gotze K, Germing U, Brümmendorf TH, Nolte F, Hofmann W-K, Giagounidis AN, Lübbert M, Greenberg PL, Bennett JM, Solé F,

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- Mallo M, Slovak ML, Ohyashiki K, Le Beau MM, Tüchler H, Pfeilstöcker M, Nösslinger T, Hildebrandt B, Hindebrandt B, Shirmeshan K, Aul C, Stauder R, Sperr WR, Valent P, Fonatsch C, Trümper L, Haase D, Schanz J: Frequency of del(12p) is commonly undetermined in myelodysplastic syndromes: Results from a German diagnostic study in comparison with an international control group. *Genes Chromosomes and Cancer*, 2015, 54(12): 809-817.
8. Imanishi S, Takahashi R, Ohsuga M, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: In vitro effect of deferasirox with 5-azacytidine in human leukemia cells. *Annals of Hematology*, 2015, 90(9): 1601-1602.
 9. Katagiri S, Tauchi T, Tadokoro K, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: BCL2L11 (BIM) deletion polymorphism, rather than BIM SNP, is an effective predictor of early molecular relapse after ABL tyrosine kinase inhibitor discontinuation in patients with chronic myeloid leukemia. *Integrative Cancer Science and Therapeutics*, 2015, 2(5): 242-244.
 10. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Ohyashiki K: Efficacy of the polo-like kinase inhibitor rigosertib, alone or in combination with Abelson tyrosine kinase inhibitors, against breakpoint cluster region-c-Abelson- positive leukemia cells. *Oncotarget*, 2015, 6(24): 20231-20240.
 11. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Sakuta J, Ohyashiki K: Anti-leukemic activity of axitinib against cells harboring the BCR-ABL T315I point mutation. *Journal of Hematology and Oncology*, 2015, 8(1):97.
 12. Katagiri S, Tauchi T, Umezumi T, Saito Y, Suguro T, Asano M, Yoshizawa S, Kitahara T, Akahane D, Tanaka Y, Fujimoto H, Okabe S, Gotoh M, Ito Y, Ohyashiki JH, Ohyashiki K. Treatment-free molecular remission achieved by combination therapy with imatinib and IFN α in CML with BIM deletion polymorphism relapsed after stop imatinib. *Rinsho Ketsueki*. 2015 Feb;56(2):216-219.
 13. Kanekura K, Yagi T, Cammack AJ, Mahadevan J, Kuroda M, Harms MB, Miller TM, Urano F. Poly-dipeptides encoded by the C9ORF72 repeats block global protein translation. *Hum Mol Genet*. 2016 Feb 29. pii: ddw052.
 14. *Ohno S, Drummen GP, Kuroda M. Focus on Extracellular Vesicles: Development of Extracellular Vesicle-Based Therapeutic Systems. *Int J Mol Sci*. 2016 Feb 6;17(2). pii: E172. doi: 10.3390/ijms17020172. Review.
 15. *Taketani Y, Usui T, Toyono T, Shima N, Yokoo S, Kimakura M, Yamagami S, Ohno S, Onodera R, Tahara K, Takeuchi H, Kuroda M. Topical Use of Angiopoietin-like Protein 2 RNAi-loaded Lipid Nanoparticles Suppresses Corneal Neovascularization. *Mol Ther Nucleic Acids*. 2016 Mar 8;5:e292. doi: 10.1038/mtna.2016.1.
 16. Hata K, Yanase N, Sudo K, Kiyonari H, Mukumoto Y, Mizuguchi J, Yokosuka T. Differential regulation of T-cell dependent and T-cell independent antibody responses through arginine methyltransferase PRMT1 in vivo. *FEBS Lett*. 2016 Apr;590(8):1200-10. doi: 10.1002/1873-3468.12161.
 17. Kanekura K, Nishi H, Isaka K, Kuroda M. MicroRNA and gynecologic cancers. *J Obstet Gynaecol Res*. 2016 Apr 20. doi: 10.1111/jog.12995.
 18. Fujinaga H, Fujinaga H, Watanabe N, Kato T, Tamano M, Terao M, Takada S, Ito Y,

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- Umezawa A, Kuroda M. Cord blood-derived endothelial colony-forming cell function is disrupted in congenital diaphragmatic hernia. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol*. 2016 Jun 1;310(11):L1143-54. doi: 10.1152/ajplung.00357.2015. Epub 2016 Apr 29.
19. *Ohno S, Itano K, Harada Y, Asada K, Oikawa K, Kashiwazako M, Okuyama H, Kumagai K, Takashi M, Sudo K, Ikeda N, Kuroda M. Development of Novel Small Hairpin RNAs That do not Require Processing by Dicer or AGO2. *Mol Ther*. 2016 Aug;24(7):1278-89. doi: 10.1038/mt.2016.81
 20. *Hashimoto-Tane A, Sakuma M, Ike H, Yokosuka T, Kimura Y, Ohara O, Saito T. Micro-adhesion rings surrounding TCR microclusters are essential for T cell activation. *J Exp Med*. 2016 Jul;213(8):1609-25. 10.1084/jem.20151088.
 21. Mori A, Nishi H, Sasaki T, Nagamitsu Y, Kawaguchi R, Okamoto A, Kuroda M, Isaka K. HLA-G expression is regulated by miR-365 in trophoblasts under hypoxic conditions. *Placenta*. 2016 Sep;45:37-41. doi: 10.1016/j.placenta.2016.07.004. Epub 2016 Jul 21.
 22. Matsumoto Y, Itami S, Kuroda M, Yoshizato K, Kawada N, Murakami Y. MiR-29a Assists in Preventing the Activation of Human Stellate Cells and Promotes Recovery From Liver Fibrosis in Mice. *Mol Ther*. 2016 Oct;24(10):1848-1859. doi: 10.1038/mt.2016.127.
 23. Nakaya M, Watari K, Tajima M, Nakaya T, Matsuda S, Ohara H, Nishihara H, Yamaguchi H, Hashimoto A, Nishida M, Nagasaka A, Horii Y, Ono H, Iribe G, Inoue R, Tsuda M, Inoue K, Tanaka A, Kuroda M, Nagata S, Kurose H. Cardiac myofibroblast engulfment of dead cells facilitates recovery after myocardial infarction. *J Clin Invest*. 2017 Jan 3;127(1):383-401. doi: 10.1172/JCI83822. Epub 2016 Dec 5.
 24. Katagiri S, Gotoh M, Tone K, Akahane D, Ito Y, Ohyashiki K, Makimura K: Fatal cyberlindnera fabianii in a patient with mixed phenotype acute leukemia after an umbilical cord blood transplantation. *International Journal of Hematology*, 2016, 103(5): 592-595.
 25. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Ohyashiki K: Combination therapy with copanlisib and ABL tyrosine kinase inhibitors against Philadelphia chromosome-positive resistant cells. *Oncotarget*, 2016, 7(33): 53116-53126.
 26. Ohyashiki JH, Umezu T, Ohyashiki K: Exosomes promote bone marrow angiogenesis in hematologic neoplasia: The role of hypoxia. *Current Opinion in Hematology*, 2016, 23(3): 268-273.
 27. 大屋敷一馬:慢性骨髄性白血病 2016 今日の治療指針(監修:山口 徹、北原光夫:医学書院). 2016:702-704.
 28. 赤羽大悟、大屋敷一馬:細菌関連血球貪食症候群 別冊 日本臨床、新領域別症候群シリーズ No.35、免疫症候群(第2版)II(日本臨床社). 2016:794-797.
 29. 大屋敷一馬:疾患概念とその変遷 診断治療の ABC—慢性骨髄性白血病・骨髄増殖腫瘍— 最新医学社(木村文彦 企画). 2016:16-21.
 30. 大屋敷一馬:レナリドミド骨髄異形成症候群(5q-症候群)の治療。造血器腫瘍アトラス改訂第5版(日本医事新報社)(編集:谷脇雅史、横田昇平、黒田純也). 2016:704-707.
 31. 大屋敷一馬:骨髄異形成症候群の予後診断. 白血病(上)—最新の基礎、臨床研究—日本臨床 74 巻増刊号 8(日本臨床社). 2016:486-491.
 32. 大屋敷一馬:コンパニオン診断に基づくがんの分子標的療法。がん診療はこう変わった(編者:滝川 一、矢富 裕、深川雅史)(FUJIREBIO INC). 2016:52-65.

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

33. 伊藤良和、大屋敷一馬：貧血、高齢者救急実践ガイド(南山堂、監修：行岡哲男、編集：太田祥一、羽生春夫)。2016:67-72.
34. 片桐誠一郎、田内哲三、齋藤優、勝呂多光子、浅野倫代、吉澤成一郎、作田寿理、赤羽大悟、田中裕子、古屋奈穂子、安藤恵子、藤本博昭、岡部聖一、後藤守孝、伊藤良和、大屋敷一馬：慢性骨髄性白血病におけるチロシンキナーゼ阻害剤中止後の筋骨格痛—アンケート調査—臨床血液。2016:57:873-876.
35. 赤羽大悟、大屋敷一馬：慢性リンパ性白血病(CLL)における診断・治療の進歩 日本医事新報。2016:4811.
36. 大屋敷一馬：低リスク骨髄異形成症候群(MDS)におけるエリスロポエチン(EPO)治療。日本医事新報。2016:4798.
37. 大屋敷一馬：MDS 診療ガイドラインにおける治療戦略：概論。貧血学—最新の診断・治療動向—(日本臨床社)。2016年75巻増刊号 252-256.
38. 大屋敷一馬：貧血学—最新の診断・治療動向— 日本臨床(MDS 診療ガイドラインにおける治療戦略：概論)。75巻増刊号 1. 251-256.
39. 横須賀忠、古畑昌枝、豊田博子、秦喜久美、矢那瀬紀子、町山裕亮「最先端イメージング技術による TCR シグナル研究の進歩」科学評論社・臨床免疫・アレルギー科学。2016年 第66巻2号 169-176.
40. *Ohno S, Kuroda M. Exosome-Mediated Targeted Delivery of miRNAs. *Methods Mol Biol.* 2016;1448:261-70. doi: 10.1007/978-1-4939-3753-0_19.
41. Makino Y, Yoon JH, Bae E, Kato M, Miyazawa K, Ohira T, Ikeda N, Kuroda M, Mamura M. Repression of Smad3 by Stat3 and c-Ski/SnoN induces gefitinib resistance in lung adenocarcinoma. *Biochem Biophys Res Commun.* 2017 Mar 4;484(2):269-277. doi: 10.1016/j.bbrc.2017.01.093. Epub 2017 Jan 20. PMID:28115165.
42. *Yamada Y, Takanashi M, Sudo K, Ueda S, Ohno SI, Kuroda M. Novel form of miR-29b suppresses bleomycin-induced pulmonary fibrosis. *PLoS One.* 2017 Feb 24;12(2):e0171957. doi: 10.1371/journal.pone.0171957. eCollection 2017. PMID:28234907.
43. Hongo-Kohama M, Kurata A, Hashimoto H, Fujita K, Horiuchi H, Nagao T, Kuroda M. Vascular Smooth Muscle Cell Maturation Stage and Ki-67 Index are Diagnostic Biomarkers for Pathologic Grade of Ovarian Teratoma. *Int J Gynecol Pathol.* 2017 Mar 17. doi:10.1097/PGP.0000000000000373. [Epub ahead of print] PMID:28319573.
44. Oikawa K, Mizusaki A, Takanashi M, Ozaki T, Sato F, Kuroda M, Muragaki Y. PRG4 expression in myxoid liposarcoma maintains tumor cell growth through suppression of an antitumor cytokine IL-24. *Biochem Biophys Res Commun.* 2017 Mar 25;485(1):209-214. doi: 10.1016/j.bbrc.2017.02.055. Epub 2017 Feb 10.
45. *Asano M, Umezumi T, Katagiri S, Kobayashi C, Tauchi T, Gotoh M, Ando K, Okabe S, Ohyashiki JH, Ohyashiki K. Up-regulated exosomal miRNA-140-3p in CML patients with musculoskeletal pain associated with discontinuation of tyrosine kinase inhibitors. *Int J Hematol.* 2017 Apr;105(4):419-422.
46. *Umezumi T, Imanishi S, Azuma K, Kobayashi C, Yoshizawa S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH. Replenishing exosomes from older bone marrow stromal cells with miR-340 inhibits myeloma-related angiogenesis. *Blood Adv.* 2017 May;1(13):812-823.
47. Kumagai K, Takanashi M, Ohno SI, Kuroda M, Sudo K. An improved Red/ET

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- recombineering system and mouse ES cells culture conditions for the generation of targeted mutant mice. *Exp Anim.* 2017 May 3;66(2):125-136. doi: 10.1538/expanim.16-0075. Epub 2016 Nov 25.
48. *Okada M, Chikuma S, Kondo T, Hibino S, Machiyama H, Yokosuka T, Nakano M, Yoshimura A. Blockage of Core Fucosylation Reduces Cell-Surface Expression of PD-1 and Promotes Anti-tumor Immune Responses of T Cells. *Cell Rep.* 2017 Aug;20(5):1017-1028. doi: 10.1016/j.celrep.2017.07.027.
49. Tanaka H, Hazama S, Iida M, Tsunedomi R, Takenouchi H, Nakajima M, Tokumitsu Y, Kanekiyo S, Shindo Y, Tomochika S, Tokuhisa Y, Sakamoto K, Suzuki N, Takeda S, Yamamoto S, Yoshino S, Ueno T, Hamamoto Y, Fujita Y, Tanaka H, Tahara K, Shimizu R, Okuno K, Fujita K, Kuroda M, Nakamura Y, Nagano H. miR-125b-1 and miR-378a are predictive biomarkers for the efficacy of vaccine treatment against colorectal cancer. *Cancer Sci.* 2017 Nov;108(11):2229-2238. doi: 10.1111/cas.13390. Epub 2017 Sep 22.
50. Katagiri S, Umezu T, Azuma K, Asano M, Akahane D, Makishima H, Yoshida K, Watatani Y, Chiba K, Miyano S, Ogawa S, Ohyashiki JH, Ohyashiki K. Hidden FLT3-D835Y clone in FLT3-ITD-positive acute myeloid leukemia that evolved into very late relapse with T-lymphoblastic leukemia. *Leuk Lymphoma.* 2017 Oct;3:1-4.
51. Imanishi S, Takahashi R, Katagiri S, Umezu T, Ohyashiki K, Ohyashiki JH. Teriflunomide restores 5-azacytidine sensitivity via activation of pyrimidine salvage in 5-azacytidine-resistant leukemia cells. *Oncotarget.* 2017 Jul 22;8(41):69906-69915.
52. Badr M, Furuhashi M, Toyoda H, Yokosuka T. The multifaced role of PD-1 in health and disease. *Chronic inflammation* 2016, Oct;pp441-457, Springer. doi.org/10.1007/978-4-431-56068-5_34
53. Azuma K, Umezu T, Imanishi S, Asano M, Yoshizawa S, Katagiri S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH. Genetic variations of bone marrow mesenchymal stromal cells derived from acute leukemia and myelodysplastic syndrome by targeted deep sequencing. *Leuk Res.* 2017 Nov;62:23-28.
54. Taketani Y, Kitamoto K, Sakisaka T, Kimakura M, Toyono T, Yamagami S, Amano S, Kuroda M, Moore T, Usui T, Ouchi Y. Repair of the TGFBI gene in human corneal keratocytes derived from a granular corneal dystrophy patient via CRISPR/Cas9-induced homology-directed repair. *Sci Rep.* 2017 Dec 1;7(1):16713. doi: 10.1038/s41598-017-16308-2.
55. *Ohira T, Sakai K, Matsubayashi J, Kajiwara N, Kakihana M, Hagiwara M, Hibi M, Yoshida K, Maeda J, Ohtani K, Nagao T, Nishio K, Ikeda N. Tumor volume determines the feasibility of cell-free DNA sequencing for mutation detection in non-small cell lung cancer. *Cancer Sci* 107(11): 1660-1666, 2016.
56. *Ohyashiki K, Umezu T, Katagiri S, Kobayashi C, Azuma K, Tauchi T, Okabe S, Fukuoka Y, Ohyashiki JH. Downregulation of plasma miR-215 in chronic myeloid leukemia patients with successful discontinuation of imatinib. *Int J Mol Sci.* 2016 Apr;17(4):570.
57. Ohyashiki JH, Umezu T, Ohyashiki K. Exosomes promote bone marrow angiogenesis in hematologic neoplasia: the role of hypoxia. *Curr Opin Hematol.* 2016 May;23(3):268-273.
58. Piao J, Kamiya T, Takai S, Inukai T, Sugita K, Ohyashiki K, Delia D, Musutani M, Mizutani S, Takagi *: Poly (ADP-ribose) polymerase inhibitors selectively induce cytotoxicity in

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- TCF3-HLF-positive leukemia cells. *Cancer Letters*, 2017, 386:131-140.
59. Katagiri S, Umezu T, Asano M, Akahane D, Azuma K, Makishima H, Yoshida K, Watatani Y, Chiba K, Miyano S, Ogawa S, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: Selective clonal sweeping of FLT3-D835Y in very late relapse after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Leukemia and Lymphoma*, 2017, Oct 3:1-4.
 60. *Katagiri S, Tauchi T, Ando K, Okabe S, Gotoh M, Ohyashiki K: Low body weight and body mass index may be associated with musculoskeletal pain following imatinib discontinuation in chronic myeloid leukemia. *Leukemia Research Reports*, 2017, 7:33-35.
 61. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Ohyashiki K: Targeting peroxisome proliferator-activated receptors – A novel strategy for Philadelphia- positive leukemia cells. *Leukemia and Lymphoma*, 2017, 58(11): 2762-2764.
 62. Imanishi S, Takahashi R, Katagiri S, Kobayashi C, Umezu T, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Teriflunomide restores 5-azacytidine sensitivity via activation of pyrimidine salvage in 5-azacytidine-resistant leukemia cells. *Oncotarget*, 2017, (41):69906-69915.
 63. Katagiri S, Akahane D, Tanaka Y, Suguro T, Ohyashiki K: Amyloid angiopathy related to severe hemorrhage in a patient with multiple myeloma. *Internal Medicine*, 2017, 56(21):2957-2958.
 64. Saito Y, Ohnishi-Amemiya A, Asano M, Tanaka Y, Yoshizawa S, Fujimoto H, Ito Y, Nakamura N, Ohyashiki K: Unique radiological features of primary pulmonary diffuse large B-cell lymphoma. *Thorax*, 2017, 72(9): 859-860.
 65. Tauchi T, Okabe S, Katagiri S, Tanaka Y, Tohyama K, Ohyashiki K: Targeting the Hedgehog signaling pathway by glasdegib limits the self-renewal of MDS-derived induced potent stem cells (iPSC). *Journal of Cancer Science and Therapy*. 2017, 9(5): 479-484.
 66. Machiyama H, Yamaguchi T, Watanabe TM, Fujita H: A novel c-Src recruitment pathway from the cytosol to focal adhesions. *FEBS Lett.*, 2017, 591(13):1940-1946. doi: 10.1002/1873-3468.12696.
 67. Machiyama H, Morikawa TJ, Okamoto K, Watanabe TM, Fujita H: The use of a genetically encoded molecular crowding sensor in various biological phenomena. *Biophys Physicobiol.*, 2017, 14:119-125. doi: 10.2142/biophysico.14.0_119. eCollection 2017.
 68. Abe Y, Nambu A, Yamaguchi S, Takamori A, Suto H, Hirose S, Yokosuka T, Nakae S, Sudo K: Role of interleukin-25 in development of spontaneous arthritis in interleukin-1 receptor antagonist-deficient mice. *Biochem Biophys Rep.*, 2017, 12:62-65. doi.org/10.1016/j.bbrep.2017.08.006
 69. Kudo Y, Shimada Y, Saji H, Ikeda N: Comment on prognostic value of epidermal growth factor receptor mutation subtypes in surgically resected non-small cell lung cancer. *Journal of Thoracic Disease*. 2017, 9(5): E499-E502.
 70. 雨宮文恵、伊藤良和、石橋康則、齋藤優、片桐誠一郎、勝呂多光子、浅野倫代、吉澤成一郎、赤羽大悟、田中裕子、藤本博昭、岡部聖一、後藤守孝、田内哲三、大屋敷一馬：JAK2-V617F 変異を有する二次性骨髄線維症に発症した BCR-ABL1 陽性慢性骨髄性白血病. *臨床血液*. 2017, 58:298-302.
 71. 雨宮文恵、後藤守孝、片桐誠一郎、勝呂多光子、吉澤成一郎、赤羽大悟、藤本博昭、伊藤良和、大屋敷一馬：少量 ruxolitinib で輸血依存から離脱した続発性骨髄線維症. *東京医科大学雑誌*. 2017, 75:93-98.

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

72. 梅津知宏、吉澤成一郎、大屋敷一馬: 多発性骨髄腫 Updating 第 10 巻 骨髄腫治療を理解するための Myeloma Biology 医薬ジャーナル社・多発性骨髄腫 Updating 2017 年第 10 巻 P.77-89.
73. Hashimoto-Tane A, Yokosuka T, Saito T. Analyzing the Dynamics of Signaling Microclusters. *The Immune Synapse. Methods Mol Biol.* 2017;1584:51-64. doi: 10.1007/978-1-4939-6881-7_4.
74. 横須賀忠、古畑昌枝、豊田博子、秦喜久美、矢那瀬紀子、町山裕亮: 細胞膜脂質成分による T 細胞シグナルソームと活性化の制御機構. 科学評論社・臨床免疫・アレルギー科学. 2017 年 第 67 巻 3 号 P.321-328.
75. Makino Y, Yoon JH, Bae E, Kato M, Miyazawa K, Ohira T, Ikeda N, Kuroda M, Mamura M. Repression of Smad3 by Stat3 and c-Ski/SnoN induces gefitinib resistance in lung adenocarcinoma. *Biochem Biophys Res Commun* 484(2): 269-277, 2017.
76. 横須賀忠、若松英、矢那瀬紀子、秦喜久美、町山裕亮: T 細胞活性化の時空間的制御機構. 日本生物物理学会・生物物理. 2018 年 第 58 巻 1 号 P.5-11.
77. 横須賀忠、若松英、古畑昌枝、豊田博子、秦喜久美、矢那瀬紀子、町山裕亮: すべてはここから始まった、CTLA-4. 実験医学. 2018 年 第 36 巻 9 号 P.1445-1451.
78. 横須賀忠、西川博嘉: がん免疫成立の起訴となる Cancver-Immunity Cycle. メディカルレビュー社 Trends IN CANCER IMMUNOLOGY. 2018 年 第 1 巻 1 号
79. 横須賀忠、若松英、秦喜久美、矢那瀬紀子、竹原朋宏、町山裕亮: イメージングが拓く免疫チェックポイント受容体の T 細胞活性化制御機構. 東邦医会誌. 2018 年 第 65 巻 3 号 P.132-135.
80. 横須賀忠、若松英、古畑昌枝、豊田博子、秦喜久美、矢那瀬紀子、町山裕亮: 分子イメージングから考察した免疫チェックポイント分子の T 細胞抑制機構. 免疫・アレルギー科. 2018 年 第 69 巻 4 号 P.387-394.
81. Ohyashiki JH, Umezumi T, Ohyashiki K. Extracellular vesicle-mediated cell-cell communication in haematological neoplasms. *Philos Trans R Soc Lond B Biol Sci.* 2018;373(1737).
82. Ikehata N, Takanashi M, Satomi T, Watanabe M, Hasegawa O, Kono M, Enomoto A, Chikazu D, Kuroda M. Toll-like receptor 2 activation implicated in oral squamous cell carcinoma development. *Biochem Biophys Res Commun.* 2018 15;495(3):2227-2234. doi: 10.1016/j.bbrc.2017.12.098.
83. Kurata A, Yamada M, Ohno SI, Inoue S, Hashimoto H, Fujita K, Takanashi M, Kuroda M. Expression level of microRNA-200c is associated with cell morphology in vitro and histological differentiation through regulation of ZEB1/2 and E-cadherin in gastric carcinoma. *Oncol Rep.* 2018 39(1):91-100. doi: 10.3892/or.2017.6093.
84. 上田 しのぶ、黒田 雅彦: 突発性肺線維症を対象とする核酸治療薬の開発. *BIO Clinica* vol.33 2018 年 1 月号 P.22-27.
85. 金蔵 孝介、上田 亜衣、黒田 雅彦: Topics「身近な話題・世界の話」(163)新規リキッドバイオプシーとしての血小板内核酸情報による癌スクリーニング. 株式会社医薬ジャーナル社 血液フロンティア. 2018 年 4 月号(第 28 巻 第 4 号)P.132-136.
86. Higuchi H, Yamakawa N, Imadome KI, Yahata T, Kotaki R, Ogata J, Kakizaki M, Fujita K, Lu J, Yokoyama K, Okuyama K, Sato A, Takamatsu M, Kurosaki N, Alba SM, Azhim A, Horie R,

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- Watanabe T, Kitamura T, Ando K, Kashiwagi T, Matsui T, Okamoto A, Handa H, Kuroda M, Nakamura N, Kotani A. Role of exosomes as a proinflammatory mediator in the development of EBV-associated lymphoma. *Blood*. 2018, 131(23):2552-2567.
87. Iida M, Hazama S, Tsunedomi R, Tanaka H, Takenouchi H, Kanekiyo S, Tokumitsu Y, Tomochika S, Tokuhisa Y, Sakamoto K, Suzuki N, Takeda S, Ueno T, Yamamoto S, Yoshino S, Fujita K, Kuroda M, Nagano H. Overexpression of miR-221 and miR-222 in the cancer stroma is associated with malignant potential in colorectal cancer. *Oncol Rep*. 2018, 40(3):1621-1631.
88. Inokuchi K, Nakayama K, Tauchi T, Takaku T, Yokose N, Yamaguchi H, Kumagai T, Komatsu N, Ohyashiki K. Therapeutic effects of tyrosine kinase inhibitors and subtypes of BCR-ABL1 transcripts in Japanese chronic myeloid leukemia patients with three-way chromosomal translocations. *Leuk Res*. 2018 Jan 3;65:74-79.
89. Najima Y, Yoshida C, Iriyama N, Fujisawa S, Wakita H, Chiba S, Okamoto S, Kawakami K, Takezako N, Kumagai T, Ohyashiki K, Taguchi J, Yano S, Igarashi T, Kouzai Y, Morita S, Sakamoto J, Sakamaki H, Inokuchi K. Regulatory T cell inhibition by dasatinib is associated with natural killer cell differentiation and a favorable molecular response-The final results of the D-first study. *Leuk Res*. 2018 Mar;66:66-72.
90. Katagiri S, Umezu T, Azuma K, Asano M, Akahane D, Makishima H, Yoshida K, Watatani Y, Chiba K, Miyano S, Ogawa S, Ohyashiki JH, Ohyashiki K. Hidden FLT3-D835Y clone in FLT3-ITD-positive acute myeloid leukemia that evolved into very late relapse with T-lymphoblastic leukemia. *Leuk Lymphoma*. 2018 Jun; 59:1490-1493.
91. Yotsumoto M, Ito Y, Hagiwara S, Terui Y, Nagai H, Ota Y, Ajisawa A, Uehara T, Tanuma J, Ohyashiki K, Okada S. HIV positivity does not have a negative impact on survival in Epstein-Barr virus-positive Hodgkin lymphoma: Nationwide retrospective study in Japan. *Oncology Letters*. 2018, Sep 16(3):3923-3928.
92. Ogura M, Yamamoto K, Morishita Y, Wakabayashi M, Tobinai K, Ando K, Kurosawa M, Gomyo H, Uike N, Tsukamoto N, Fukuhara N, Shimoyama T, Taniwaki M, Nosaka K, Kobayashi N, Sawada K, Kobayashi H, Kumagai K, Takayama N, Usuki K, Ohnishi K, Nagai H, Hanamaru I, Yamaguchi M, Ohyashiki K, Utsumi T, Yakushiji Y, Maruyama D, Ohmachi K, Matsumoto Y, Nakamura S, Hotta T, Tsukasaki K. R-high-CHOP/CHASER/LEED with autologous stem cell transplantation in newly diagnosed mantle cell lymphoma: JCOG0406 study. *Cancer Science*, 2018, 109(9):2830-2840.
93. Katagiri S, Akahane D, Suguro T, Furuya N, Fujimoto H, Saito T, Yamashita J, Nakamura N, Ohyashiki K. Cardiac biopsy with intracardiac echocardiographic-guidance to successfully diagnose cardiac lymphoma. *Clinical Case Reports*. 2018, 6(9):1681-1683.
94. Okabe S, Tanaka Y, Tauchi T, Ohyashiki K. Therapeutic targeting of Aurora A kinase in Philadelphia chromosome-positive ABL tyrosine kinase inhibitor-resistant cells. *Oncotarget*, 2018, 9(65):32496-32506.
95. Schanz J, Solé F, Mallo M, Luño E, Cervera J, Granada I, Hildebrandt B, Slovak ML,

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- Ohyashiki K, Fonatsch C, Pfeilstöcker M, Nösslinger T, Valent P, Giagounidis A, Aul C, Lübbert M, Stauder R, Krieger O, Le Beau MM, Bennett JM, Greenberg P, Germing U, Haase D. Clonal architecture in patients with MDS and double or minor complex abnormalities: Detailed analysis of clonal composition, involved abnormalities and prognostic significance. *Genes Chromosome and Cancer*. 2018 Nov;57(11):547-556.
96. *Yoshizawa S, Umezu T, Saitoh Y, Gotoh M, Akahane D, Kobayashi C, Ohyashiki JH, Ohyashiki K. Exosomal miRNA signatures for late-onset acute graft-versus-host disease in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *International Journal of Molecular Sciences*, 2018, 19:2493.
97. Kawaguchi Y, Okano T, Kakihana M, Kajiwara N, Ohira T, Ikeda N: Transition rate from EGFR-TKI to cytotoxic chemotherapy patients with EGFR mutation-positive lung adenocarcinoma. *Anticancer Res*. 2018, 38(5): 3127-3132.
98. Shimada Y, Furumoto H, Imai K, Masuno R, Matsubayashi J, Kajiwara N, Ohira T, Ikeda N: Prognostic value of tumor solid-part size and solid-part volume in patients with clinical stage I non-small cell lung cancer. *Journal of Thoracic Disease*. 2018, 10(12):6491-6500.
99. Ito Y, Umezu T, Tadokoro K, Saito Y, Katagiri S, Suguro T, Asano M, Yoshizawa S, Akahane D, Tanaka Y, Fujimoto H, Okabe S, Gotoh M, Tauchi T, Kawana C, Ohyashiki JH, Nakamura N, Ohyashiki K: *BIM* deletion polymorphism accounts for lack of favorable outcome in Japanese females with follicular lymphoma. *Leukemia and Lymphoma*, 2019 May;60(5):1283-1288.
100. Imanishi S, Umezu T, Kobayashi C, Ohta T, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Chromatin regulation by HP1 γ contributes to survival of 5-azacytidine-resistant cells. *Frontier in Pharmacology*, 2018, 16;9:1166.
101. Watanabe T, Tobinai K, Wakabayashi M, Morishima Y, Kobayashi H, Kinoshita T, Suzuki T, Yamaguchi M, Ando K, Ogura M, Taniwaki M, Uike N, Yoshino T, Nawano S, Terauchi T, Hotta T, Nagai H, Tsukasaki K; JCOG0203 Collaborators (contributed). Outcomes after R-CHOP in patients with newly diagnosed advanced follicular lymphoma: a 10-year follow-up analysis of the JCOG0203 trial. *Lancet Haematol*. 2018 Nov;5(11): e520-531.
102. Yoneyama R, Saji H, Kato Y, Kudo Y, Shimada Y, Kimura M, Hagiwara M, Kakihana M, Miyajima K, Kajiwara N, Ohira T, Kato H, Ikeda N: Clinicopathological characteristics and treatment strategies for young lung cancer patients. *Ann Transl Med*. 2019, 7(5):100.
103. Sakai K, Ohira T, Matsubayashi J, Yoneshige A, Ito A, Mitsudomi T, Nagao T, Iwamatsu E, Katayama J, Ikeda N, Nishio K: Performance of OncoPrint Fusion Transcript kit for formalin-fixed, paraffin-embedded lung cancer specimens. *Cancer Sci*. 2019, 110(6): 2044-2049.
104. Nakajima E, Sugita M, Furukawa K, Takahashi H, Uchida O, Kawaguchi Y, Ohira T, Matsubayashi J, Ikeda N, Hirsch FR, Franklin WA: Frequency and significance of epidermal growth factor receptor mutations detected by PCR methods in patients with non-small cell lung cancer. *Oncol Lett*. 2019, 17(6):5125-5131.

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

105. Matsubayashi J, Miyake S, Kudo Y, Shimada Y, Maeda J, Saji H, Kakihana M, Park J, Kajiwara N, Inoue S, Saito K, Ohira T, Ikeda N, Tokue K, Nagao T: Cytological differences between invasive and noninvasive or minimally invasive lung adenocarcinomas diagnosed in Japanese patients using needle biopsy specimens of pulmonary lesions ≤ 3 cm in diameter. *Diagnostic Cytopathology*. 2019, 47(7):688-694.
106. Omori T, Aokage K, Nakamura H, Katsumata S, Miyoshi T, Sugano M, Kojima M, Fujii S, Kuwata T, Ochiai A, Ikeda N, Tsuboi M, Ishii G: Growth patterns of small peripheral squamous cell carcinoma of the lung and their impacts on pathological and biological characteristics of tumor cells. *J Cancer Res Clin Oncol*. 2019, 145(7):1773-1783.
107. Setojima Y, Shimada Y, Tanaka T, Shigefuku S, Makino Y, Maehara S, Hagiwara M, Masuno R, Yamada T, Kakihana M, Kajiwara N, Ohira T, Ikeda N: Prognostic impact of solid-part tumour volume doubling time in patients with radiological part-solid or solid lung cancer. *Eur J Cardiothorac Surg*. 2019, ezz305.
108. Kawaguchi Y, Okano T, Imai K, Maehara S, Maeda J, Yoshida K, Hagiwara M, Kakihana M, Kajiwara N, Ohira T, Matsubayashi J, Ikeda N: Epidermal growth factor receptor mutation subtype has differential effects on adjuvant chemotherapy for resected adenocarcinoma pathological stages II-III. *Oncol Lett*. 2019, 18(6):6451-6458.
109. Okabe S, Tanaka Y, Tsuchi T, Ohyashiki K: A novel phosphoinositide 3-kinase inhibitor, copanlisib, and in combination with carfilzomib, inhibits multiple myeloma cells. *Annals of Hematology*, 2019 Mar;98(3):723-733.
110. Umehara R, Kurata A, Takanashi M, Hashimoto H, Fujita K, Nagao T, Kuroda M: Fascin as a useful marker for identifying neural components in immature teratomas of human ovary and those derived from murine embryonic stem cells. *Int J Gynecol Pathol*. 2019, 38(4):377-385.
111. *Saito S, Ohno SI, Harada Y, Oikawa K, Fujita K, Mineo S, Gondo A, Kanno Y, Kuroda M: rAAV6-mediated miR-29b delivery suppresses renal fibrosis. *Clin Exp Nephrol*. 2019 Dec;23(12):1345-1356. doi: 10.1007/s10157-019-01783-w. Epub 2019 Sep 3.
112. Kurata A, Saito A, Hashimoto H, Fujita K, Ohno SI, Kamma H, Nagao T, Kobayashi S, Yamashina A, Kuroda M: Difference in immunohistochemical characteristics between Takayasu arteritis and giant cell arteritis: it may be better to distinguish them in the same age. *Mod Rheumatol*. 2019, 21:1-10.
113. Ueda A, Oikawa K, Fujita K, Ishikawa A, Sato E, Ishikawa T, Kuroda M, Kanekura K: Therapeutic potential of PLK1 inhibition in triple-negative breast cancer. *Lab Invest*. 2019 99:1275-1286.
114. Katagiri S, Umezumi T, Azuma K, Kobayashi C, Akahane D, Suguro T, Furuya N, Fujimoto H, Nakamura N, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: Maintenance 5-azacytidine therapy by MRD monitoring after allogeneic HSCT in myeloid/lymphoid neoplasms with FGFR1 rearrangement. *Bone Marrow Transplant*. 2019 Jul;54(7):1148-1150.
115. Kubota S, Tokunaga K, Umezumi T, Yokomizo-Nakano T, Sun Y, Oshima M, Tan KT, Yang H,

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- Kanai A, Iwanaga E, Asou N, Maeda T, Nakagata N, Iwama A, Ohyashiki K, Osato M, Sashida G: Lineage-specific RUNX2 super-enhancer activates MYC and promotes the development of blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm. *Nat Commun.* 2019 Apr 10;10(1):1653.
116. Asano M, Ohyashiki JH, Kobayashi-Kawana C, Umezu T, Imanishi S, Azuma K, Akahane D, Fujimoto H, Ito Y, Ohyashiki K: A novel non-invasive monitoring assay of 5-azacitidine efficacy using global DNA methylation of peripheral blood in myelodysplastic syndrome. *Drug Des Devel Ther.* 2019 May 30;13:1821-1833.
117. Katagiri S, Azuma K, Akahane D, Saito K, Ohyashiki K: A unique breast involvement detected by MRI-DWIBS in T cell acute lymphoblastic leukemia. *Breast J.* 2019 Nov;25(6):1276-1277.
118. *Umezu T, Imanishi S, Yoshizawa S, Kawana C, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: Induction of multiple myeloma bone marrow stromal cell apoptosis by inhibiting extracellular vesicle miR-10a secretion. *Blood Adv.* 2019 Nov 12;3(21):3228-3240.
119. Katagiri S, Makishima H, Azuma K, Nannya Y, Saitoh Y, Yoshizawa S, Akahane D, Fujimoto H, Ito Y, Velaga R, Umezu T, Ohyashiki JH, Ogawa S, Ohyashiki K: Predisposed genomic instability in pre-treatment bone marrow evolves to therapy-related myeloid neoplasms in malignant lymphoma. *Haematologica.* 2019 Nov 7.
120. *Kong MS, Hashimoto-Tane A, Kawashima Y, Sakuma M, Yokosuka T, Kometani K5, Onishi R, Carpino N, Ohara O, Kurosaki T, Phua KK, Saito T: Inhibition of T cell activation and function by the adaptor protein CIN85. *Sci Signal.* 2019 Feb 5;12:567. pii: eaav4373. doi: 10.1126/scisignal.aav4373.
121. 横須賀忠、若松英、秦喜久美、竹原朋宏、西航、矢那瀬紀子、町山裕亮: 免疫チェックポイント分子の分子作用機序. 実験医学増刊号「新・腫瘍免疫学」. 2019年 第37巻 15号 P.2469-2477.
122. Ueda S, Takanashi M, Sudo K, Kanekura K, Kuroda M: miR-27a ameliorates chemoresistance of breast cancer cells by disruption of reactive oxygen species homeostasis and impairment of autophagy. *Lab Invest.* 2020 Feb 17. doi: 10.1038/s41374-020-0409-4
123. Kitamoto K, Taketani Y, Fujii W, Inamochi A, Toyono T, Miyai T, Yamagami S, Kuroda M, Usui T, Ouchi Y: Generation of mouse model of TGFBI-R124C corneal dystrophy using CRISPR/Cas9-mediated homology-directed repair. *Sci Rep.* 2020; 10: 2000. Published online 2020 Feb 6. doi: 10.1038/s41598-020-58876-w
124. Katagiri S, Gotoh A, Ohyashiki K: Very late relapse with rapid BCR-ABL1 elevation after more than seven years of treatment-free remission with undetectable molecular residual disease in chronic myeloid leukaemia. *Br J Haematol.* 2020 Jan;188(2):332-334.
125. *Saitoh Y, Umezu T, Imanishi S, Asano M, Yoshizawa S, Katagiri S, Suguro T, Fujimoto H, Akahane D, Kobayashi-Kawana C, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: Downregulation of extracellular vesicle microRNA-101 derived from bone marrow mesenchymal stromal cells in myelodysplastic syndrome with disease progression. *Oncol Lett.* 2020

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

Mar;19(3):2053-2061.

<図書>

1. 大野 慎一郎、黒田 雅彦:第 4 章 6 エクソソームを用いた DDS キャリア. P149-156. DDS キャリア作製プロトコル集(The Prorocols for the Preparation of DDS Carriers) 監修:丸山 一雄 シーエムシー出版 2015.8.25.
2. Ohno S, Kuroda M. Exosome-mediated targeted delivery of miRNAs. Federico, Maurizio (Ed.) Lentiviral Vectors and Exosomes as Gene and Protein Delivery Tools. Meth Mol Biol. vol.1448 doi:10.1007/978-1-4939-3753-0 IF 1.29.
3. 上田しのぶ、黒田雅彦: グリオーマ治療の Decesion Marking 脳神経外科診療プラクティス. 文光堂. 総ページ数 304(P.260-261)、2016.
4. 黒田 雅彦、高梨 正勝: 第 2 編 機能研究 第 6 章 創薬～DDS／新規バイオマーカー～ 第 2 節 エクソソームの臨床応用について. P195-216. パラダイムシフトをもたらすエクソソーム機能研究最前線 シグナル伝達からがん、免疫、神経疾患との関わり、創薬利用まで. 編者 落谷 孝広 株式会社 エヌ・ティー・エス 2017.3.8 初版.
5. 上田 しのぶ、高梨 正勝、黒田 雅彦: 14 章 血中 miRNA 研究の現状と創薬への期待. P145-154. miRNA の最新知識～基礎領域から診断・治療応用まで～. 編者 落谷 孝広 医薬ジャーナル社(総ページ数 195)2017.6.20 初版.
6. 福本 学、黒田雅彦 編集: 特集 計量 (デジタル) 病理学 : 画像の数値化から補助診断まで 病理と臨床 文光堂 総ページ数 90 (P.9-99) 35 巻 1 号, 2017.
7. 横須賀忠: 第7章 免疫受容体とシグナル伝達 「アバスーリックマンーピレ 分子細胞免疫学 第9版」 P.147-183 総ページ 577 頁 ELSEVIER 2018 年 3 月
8. 横須賀忠: 第7章 リンパ球レセプターシグナル 「JANEWAY'S 免疫生物学 第9版」 P.257-293 総ページ 884 頁 南江堂 2019 年 3 月
9. 横須賀忠、若松英、町山裕亮: 第7章 第2節 免疫チェックポイント受容体 PD-1 と CTLA-4 「膜タンパク質工学ハンドブック」 株 NTS 総ページ 624 頁 2020 年 4 月 ISBN 978-4-86043-537-0
10. 横須賀忠: 第4章 認識のメカニズム H.TCR による認識 「標準免疫学」 2020 年発刊予定

<学会発表>

1. **Ohno S, Itano K, Harada Y, Asada K, Oikawa K, Kashiwazako M, Takanashi M, Sudo K, Ikeda N, Kuroda M: Development of novel form of mimic microRNA for lung cancer therapy. AACR Annual Meeting 2015. Philadelphia, Pennsylvania, USA. April. 18-22, 2015
2. 老川桂生、浅田浩太郎、大野慎一郎、黒田雅彦: microRNA 生成経路を欠損する肺がん細胞株の解析. 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋) 2015 年 4 月 30 日-5 月 2 日
3. 浅田浩太郎、老川桂生、大野慎一郎、黒田雅彦: 肺がんにおける Argonaute ファミリーの発現・機能解析. 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋) 2015 年 4 月 30 日- 5 月 2 日

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- 山田正俊、齋藤 彰、山本陽一郎、立石文子、黒田雅彦. 核形態測定に基づく乳管内増殖病変診断補助の試み. 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋) 2015 年 4 月 30 日- 5 月 2 日
4. 橋本浩次、倉田 厚、名城珠希、牛島友則、藤田浩司、堀内 啓、黒田雅彦: 内頸動脈内膜における平滑筋細胞の分化度と、動脈硬化性疾患の合併の有無の相関. 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋) 2015 年 4 月 30 日- 5 月 2 日
 5. 大野慎一郎、板野華蓮、原田裕一郎、浅田浩太郎、老川桂生、柏迫幹絵、高梨正勝、須藤カツ子、池田徳彦、黒田雅彦: 肺がん治療を想定した副作用の少ない短鎖型新規核酸医薬の開発. 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋) 2015 年 4 月 30 日- 5 月 2 日
 6. 倉田 厚、山田正俊、大野慎一郎、橋本浩次、藤田浩司、高梨正勝、黒田雅彦: 胃癌細胞株の形態変化における、上皮間葉系移行に関わるマイクロ RNA200c とその標的の検出. 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋) 2015 年 4 月 30 日- 5 月 2 日
 7. 倉田 厚、真村瑞子、藤田浩司、平野和彦、長尾俊孝、黒田雅彦: 高安大動脈炎の進展に関わる病理像の変化. 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋) 2015 年 4 月 30 日- 5 月 2 日
 8. 山田侑子、高梨正勝、須藤カツ子、上田しのぶ、黒田雅彦: 肺線維症に対する miR-29b 補充療法. 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋) 2015 年 4 月 30 日- 5 月 2 日
 9. 藤田浩司、山田正俊、高梨正勝、黒田雅彦: 浸潤性乳癌に出現する let-7d 発現細胞の検討. 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋) 2015 年 4 月 30 日 - 5 月 2 日
 10. 大木 拓也、梅津 知宏、大屋敷純子、福岡 豊: miRNA と mRNA の統合解析によるがん細胞の低酸素適応のメカニズム解析. 第 54 回日本生体医工学会大会、名古屋国際会議場 (名古屋) 2015 年 5 月 7 日- 9 日
 11. Yokosuka T, Hashimoto-Tane A, Saito T: Cytoskeletal regulation of the clustering of a Ras-GEF, RasGRP1, upon T cell activation. 第 25 回京都 T 細胞カンファレンス (京都) 2015 年 5 月 15 - 16 日
 12. Asano M, Kobayashi C, Umezumi T, Imanishi S, Azauma K, Akahane D, Fujimoto H, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: The genome-wide DNA methylation status as a predictor of 5-azacytidine in clinical responses. 6th JSH International symposium. 2015, May 22-23, 2015, Karuizawa, Nagano.
 13. Umezumi T, Imanishi S, Yoshizawa S, Saitoh Y, Yamamoto Y, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Age-related alterations in exosomal miRNAs derived from bone marrow mesenchymal stromal cells. 6th JSH International Symposium, May 22-23, 2015, Karuizawa Prince Hotel West, Karuizawa, Japan.
 14. Azuma K, Umezumi T, Imanishi S, Kobayashi C, Asano M, Katagiri S, Akahane D, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Telomere repeat-containing RNA (TERRA), a possible epigenetic biomarker of DNA damage phenotype in 5-azacytidine-resistant leukemia cells. 6th JSH International Symposium, May 22-23, 2015, Karuizawa Prince Hotel West, Karuizawa, Japan.
 15. Imanishi S, Ohsuga M, Takahashi R, Umezumi T, Kobayashi C, Katagiri S, Asano M, Saitoh Y, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: BET protein inhibition interferes DNA integrity in azacytidine resistant cells through ATM signaling. 6th JSH International symposium. 2015, May 22-23, 2015, Karuizawa, Nagano.

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

16. 東 剣紅、今西 哲、大屋敷純子、梅津知宏、大屋敷一馬: 次世代シーケンサーによるクリニカルシーケンスの実際: 骨髄系腫瘍の体細胞変異解析. 第 175 回東京医科大学医学学会総会 東京医科大学病院 (東京) 2015 年 6 月 6 日
17. 藤本博昭、片桐誠一郎、大屋敷一馬、溝口 出、善本隆之、梅津知宏、大屋敷純子: 本邦健常者における BCL2L11(BIM) 遺伝的多型の頻度と免疫細胞との関係. 第 175 回東京医科大学医学学会総会 東京医科大学病院 (東京) 2015 年 6 月 6 日
18. 梅津 知宏、吉澤成一郎、東 剣虹、大屋敷一馬、大屋敷純子: がん微小環境を制御する新たな機構の解明 -細胞外小胞エクソソームを介した骨髄腫細胞-骨髄内間質細胞間相互作用-. 第175回東京医科大学医学学会総会 東京医科大学病院 (東京) 2015 年 6 月 6 日
19. 大屋敷純子、梅津知宏: エピジェネティックな変化およびテロメア動態を指標とした体細胞初期化品質の評価系の確立. 第175回東京医科大学医学学会総会 東京医科大学病院 (東京) 2015 年 6 月 6 日
20. Yoshizawa S, Umezumi T, Saitoh Y, Gotoh M, Akahane D, Kobayashi C, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: Distinct exosomal miRNA expression of late onset graft-versus-host disease in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. 20th European Hematology Association Congress. June 11-14, 2015, Wien, Austria.
21. Tauchi T, Okabe S, Ohyashiki K: The stemness inhibitor, BB1608, reduces the self-renewal of BCR-ABL positive leukemia cells. 20th European Hematology Association Congress. June 11-14, 2015, Wien, Austria.
22. Umezumi T, Imanishi S, Azuma K, Yoshizawa S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH. Bone marrowmesenchymal stromal cells from healthy donors secrete exosomes that inhibit in vivo tumor growth and angiogenesis in multiple myeloma. 20th Congress of EHA, June 11-14, 2015, Messe Wien, Vienna, Austria.
23. Yoshizawa S, Umezumi T, Saitoh Y, Gotoh M, Akahane D, Kobayashi C, Ohyashiki JH, Ohyashiki K. Distinct exosomal miRNA expression of late onset graft-versus-host disease in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. 20th Congress of EHA, June 11-14, 2015, Messe Wien, Vienna, Austria.
24. 関野 知聖、梅津 知宏、今西 哲、東 剣虹、武内 健、福岡 豊、大屋敷一馬、大屋敷純子: 骨髄間質細胞由来の老化関連エクソソーム miRNA の解析. 第4回医薬工3大学包括連携推進シンポジウム 工学院大学 (東京) 2015 年 6 月 20 日
25. 大木 拓也、梅津 知宏、大屋敷純子、福岡 豊: 異種データの統合による多発性骨髄腫の低酸素耐性機序の解析. 第4回医薬工3大学包括連携推進シンポジウム 工学院大学 (東京) 2015 年 6 月 20 日
26. 横須賀忠(招待講演): 分子イメージングが拓く T 細胞活性化の時空間的制御機構. 第 14 回四国免疫フォーラム 特別講演 (松山) 2015 年 6 月 20 日
27. 横須賀忠: ユビキチンが形成する T 細胞抑制性シグナルソームの分子イメージング解析. 新学術領域「ユビキチンネオバイオロジー」第1回領域班会議 (京都) 2015 年 7 月 2 日
28. 大野慎一郎、板野華蓮、浅田浩太郎、老川桂生、柏迫幹絵、高梨正勝、黒田雅彦. 副作用を軽減した短鎖型核酸医薬の開発. 第 12 回日本病理学会カンファレンス 神戸六甲山ホテル (神戸) 2015 年 7 月 24 - 25 日.

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

29. 老川桂生、浅田浩太郎、大野慎一郎、黒田雅彦. microRNA の生成経路を欠損する肺がん細胞株の解析. 第 12 回日本病理学会カンファレンス 神戸六甲山ホテル (神戸) 2015 年 7 月 24 - 25 日.
30. 浅田浩太郎、老川桂生、大野慎一郎、黒田雅彦. 肺がんにおける Argonaute ファミリー-の発現・機能解析. 第 12 回日本病理学会カンファレンス 神戸六甲山ホテル (神戸) 2015 年 7 月 24 - 25 日
31. 山田侑子、高梨正勝、須藤カツ子、上田しのぶ、黒田雅彦. 肺線維症に対する miR-29b 補充療法. 第 12 回日本病理学会カンファレンス 神戸六甲山ホテル (神戸) 2015 年 7 月 24 - 25 日
32. 柏迫幹絵、高梨正勝、黒田雅彦. ダニ抗原で誘発させたアトピー性皮膚炎モデルマウスの作成. 第 12 回日本病理学会カンファレンス 神戸六甲山ホテル (神戸) 2015 年 7 月 24 - 25 日
33. 藤田浩司、倉田 厚、別所泰子、峯尾松一郎、黒田雅彦. 子宮頸部上皮腫瘍 (cervical intraepithelial neoplasia; CIN) の抗 MUC1 抗体における染色性の検討. 第 12 回日本病理学会カンファレンス 神戸六甲山ホテル (神戸) 2015 年 7 月 24 - 25 日
34. 黒田雅彦: 計測画像情報の病理学への応用. 第 12 回日本病理学会カンファレンス 神戸六甲山ホテル (神戸) 2015 年 7 月 24 - 25 日
35. Ohki T, Umezu T, Ohyashiki JH, Fukuoka Y. Integrative analysis of expression levels of miRNA and mRNA: Investigation of hypoxic tolerance in leukemia. 37th International Annual Conference of IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, August 25-29, 2015, Milano Conference Center, Milan, Italy.
36. 黒田雅彦、エクソソームの臨床応用、近未来医療フォーラム (東京) 2015 年 9 月 1 日
37. Ohyashiki K, Umezu T, Imanishi S, Ohyashiki JH. Leukemia cells under persistent hypoxia secrete exosomes enhancing angiogenesis in mice. ISEH 44th Annual Scientific Meeting, September 17, 2015, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan.
38. 大屋敷一馬、溝口 出、善本隆之、田内哲三、岡部聖一、片桐誠一朗、梅津知宏、大屋敷純子: Stop-imatinib CML 患者末梢血単核球における免疫関連 miRNA の意義. 第 7 回血液疾患免疫療法研究会 (東京) 2015 年 9 月 26 日
39. Umezu T, Imanishi S, Azuma K, Yoshizawa S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH. Exosome-based therapeutic approach using exosomal miRNAs derived from bone marrow mesenchymal stromal cells. 第 74 回日本癌学会学術総会 名古屋国際会議場 (名古屋) 2015 年 10 月 8 日 - 10 日
40. Azuma K, Takeuchi K, Umezu T, Ohyashiki K, Ohyashiki JH. Establishment and characterization of a novel chronic hypoxia-resistant multiple myeloma cell line. 第 74 回日本癌学会学術総会 名古屋国際会議場 (名古屋) 2015 年 10 月 8 日 - 10 日
41. 及川恒輔、高梨正勝、佐藤冬樹、黒田雅彦、村垣泰光. TLS-CHOP を発現する粘液型脂肪肉腫細胞の増殖に必須な新規分子経路の探索. 第 74 回日本癌学会学術総会 名古屋国際会議場 (名古屋) 2015 年 10 月 8 日 - 10 日
42. Saitoh Y, Imanishi S, Umezu T, Yoshizawa S, Asano M, Fujimoto H, Akahane D, Yamamoto Y, Kobayashi C, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: Exosomal miRNA signature of bone marrow mesenchymal stromal cells derived from MDS patients. 第 77 回日本血液学会学術集会

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

(金沢) 2015 年 10 月 16 日- 18 日

43. Imanishi S, Takahashi R, Miho Ohsuga, Umezu T, Kobayashi C, Katagiri S, Asano M, Saitoh Y, Ohayashiki K, Ohayashiki JH: Targeting bromodomain protein in azacytidine resistant leukemia cells. 第 77 回日本血液学会学術集会 (金沢) 2015 年 10 月 16 日- 18 日
44. Ito Y, Umezu T, Tadokoro K, Saito Y, Katagiri S, Yoshizawa S, Fujimoto H, Akahane D, Suguro T, Asano M, Tanaka Y, Ohayashiki JH, Ohayashiki K: BIM deletion polymorphism may be associated with resistance to chemotherapy for follicular lymphoma. 第 77 回日本血液学会学術集会 (金沢) 2015 年 10 月 16 日- 18 日
45. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Ohayashiki K: Phosphoinositide 3-kinase inhibitor, copanlisib for the treatment of Ph positive leukemia cells. 第 77 回日本血液学会学術集会 (金沢) 2015 年 10 月 16 日- 18 日
46. Yoshizawa S, Umezu T, Saito Y, Gotoh M, Akahane D, Kobayashi C, Ohayashiki JH, Ohayashiki K: Exosomal miRNA signature of late onset acute GVHD in allogeneic HSCT. 第 77 回日本血液学会学術集会 (金沢) 2015 年 10 月 16 日- 18 日
47. Akahane D, Asano M, Gotoh M, Saitoh Y, Katagiri S, Suguro T, Yoshizawa S, Sakuta J, Tanaka Y, Furuya N, Fujimoto H, Okabe S, Tauchi T, Ito Y, Ohayashiki K: Successful treatment with azacitidine after CBT for primary refractory AML with monosomal karyotype. 第 77 回日本血液学会学術集会 (金沢) 2015 年 10 月 16 日- 18 日
48. Katagiri S, Tauchi T, Umezu T, Tadokoro K, Mizoguchi I, Yoshimoto T, Ohayashiki JH, Ohayashiki K: Predictive factors for successful treatment discontinuation of CML patients. 第 77 回日本血液学会学術集会 (金沢) 2015 年 10 月 16 日- 18 日
49. Tanaka Y, Okabe S, Tauchi T, Ito Y, Ohayashiki K: Antitumor activity of phosphoinositide 3-kinase inhibitor, copanlisib in multiple myeloma. 第 77 回日本血液学会学術集会 (金沢) 2015 年 10 月 16 日- 18 日
50. Tauchi T, Okabe S, Katagiri S, Tanaka Y, Ohayashiki K: Activity of stemness inhibitor, BBI608, on the self-renewal of BCR-ABL1 positive leukemia cells. 第 77 回日本血液学会学術集会 (金沢) 2015 年 10 月 16 日- 18 日
51. Yoshizawa S, Umezu T, Saitoh Y, Gotoh M, Akahane D, Kobayashi C, Ohayashiki JH, Ohayashiki K. Exosomal miRNA signature of late onset acute graft-versus-host disease in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. 第 77 回日本血液学会学術集会 (金沢) 2015 年 10 月 16 日- 18 日
52. Saitoh Y, Imanishi S, Umezu T, Yoshizawa S, Asano M, Fujimoto H, Akahane D, Yamamoto Y, Kobayashi C, Ohayashiki JH, Ohayashiki K. Exosomal miRNA signature of bone marrow mesenchymal stromal cells derived from MDS patients. 第 77 回日本血液学会学術集会 (金沢) 2015 年 10 月 16 日- 18 日
53. 武内 健、梅津知宏、小林千晶、大屋敷一馬、東 剣紅、大屋敷純子: 低酸素耐性骨髓腫細胞株 IM-9-HR の樹立と性状. 第 176 回東京医科大学医学会総会 (東京) 2015 年 11 月 7 日
54. 大須賀美穂、今西 哲、高橋諒子、大屋敷純子、梅津知宏、小林千晶、片桐誠一郎、大屋敷一馬: アザシチジン耐性白血病細胞株における BET ファミリー阻害剤の分子機構の解明. 第 176 回東京医科大学医学会総会 (東京) 2015 年 11 月 7 日
55. 武内 健、梅津 知宏、東 剣虹、小林 千晶、大屋敷一馬、大屋敷純子: 低酸素耐性骨髓腫細胞株 IM-9-HR の樹立と性状解析. 第 176 回医学会総会 (東京) 2015 年 11 月

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

7 日

56. Yokosuka T, Hashimoto-Tane A, Furuhashi M, Toyoda H, Saito T: Cytoskeletal regulation of the clustering of a Ras-GEF, RasGRP1, upon T cell activation. 第 44 回日本免疫学会総会 学術集会(札幌) 2015 年 11 月 18 - 20 日
57. 及川恒輔、田中正視、尾崎 敬、黒田雅彦、村垣泰光. 粘液型脂肪肉腫特異的キメラ遺伝子 TLS-CHOP に制御される新規分子メカニズムの検討. 第 38 回日本分子生物学会第 88 回日本生化学学会大会 合同大会、神戸、2015 年 12 月 1 - 4 日
58. Schanz J, Bennett JM, Slovak ML, Fenaux P, Malcovati L, Cazzola M, Valent P, Ohyashiki K, Levis A, Sekeres MA, Tauro A, Magalhaes S, an de Loosdrecht AA: Prognostic impact of rare single abnormalities in myelodysplastic syndromes. 57th Annual Meeting of American Society of Hematology. Dec 5-8, 2015, Florida, USA.
59. Suzuki T, Kizaki M, Uike N, Abe Y, Hidaka M, Tagashira S, Tsuchiya S, Ohyashiki K, Miyazaki M: A Phase 1/2 study of WT1 peptide cancer vaccine WT4869 in patients with myelodysplastic syndromes (MDS). 57th Annual Meeting of American Society of Hematology. Dec 5-8, 2015, Florida, USA.
60. Tauchi T, Okabe S, Katagiri S, Tanaka Y, Tohyama K, Ohyashiki K: Targeting the hedgehog signaling pathway by PF-04449913 limits the self-renewal of MDS-derived induced potent stem cells (iPSC). 57th Annual Meeting of American Society of Hematology. Dec 5-8, 2015, Florida, USA.
61. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Sakuta J, Ohyashiki K: Dual HDAC and PI3K inhibitor, CUDC-907 alone or in combination with ABL tyrosine kinase inhibitor against ABL tyrosine kinase inhibitor resistant leukemia cells. 57th Annual Meeting of American Society of Hematology. Dec 5-8, 2015, Florida, USA.
62. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Sakuta J, Ohyashiki K: Anti-leukemic activity of axitinib against cells harboring the BCR-ABL point mutation. 57th Annual Meeting of American Society of Hematology. Dec 5-8, 2015, Florida, USA.
63. 黒田雅彦: エクソソームが開く新しい医療. 特別講演(招待講演). 第 19 回日本統合医療学会(山口) 2015 年 12 月 12 - 13 日.
64. 横須賀忠: ユビキチンが形成する T 細胞抑制性シグナルソームの分子イメージング解析. 新学術領域「ユビキチンネオバイオロジー」第 2 回領域班会議(富浦)2015 年 12 月 18 日
65. 横須賀忠(招待講演): T 細胞シグナルソーム「TCR マイクロクラスター」による T 細胞活性化の時空間的制御機構. 岡山大学第 10 回免疫学セミナー(岡山) 2016 年 2 月 4 日
66. 横須賀忠(招待講演): イメージングが拓く免疫チェックポイント分子による時空間的 T 細胞制御メカニズム. 第 15 回新宿肺癌サミットミーティング 特別講演(東京) 2016 年 2 月 17 日
67. **Ohayashiki K, Umezumi T, Katagiri S, Kobayashi C, Azuma K, Tauchi T. Okabe S, Fukuoka Y, Ohayashiki JH: Down-regulation of plasma miR-215 in chronic myeloid leukemia patients with successful imatinib discontinuation, AACR-JCA joint symposium. Feb 16-20, 2016, Maui, USA.
68. Umezumi T, Imanishi S, Azuma K, Kobayashi C, Ohayashiki K, Ohayashiki JH: Bone marrow stromal cells from young healthy donors secrete exosomes that inhibit in vivo

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- angiogenesis in multiple myeloma. 10th AACR-JCA Joint Conference, February 16-20, 2016, Maui, Hawaii.
69. Yokosuka T : Balance of T cell activation and suppression controlled by Cbl-b-mediated ubiquitination of TCR microclusters. Environment controlling normal and diseased hematopoietic and immune systems MEXT Research Project Symposium (横浜) 2016年3月2日
 70. 大木 拓也、福岡 豊、梅津 知宏、大屋敷純子 : microRNA と遺伝子の統計的統合解析法の検討. 電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会 (東京) 2016年3月13日
 71. 齋藤 優、浅野倫代、吉澤成一郎、藤本博昭、後藤守孝、伊藤良和、田内哲三、大屋敷一馬 : 白血球減少で発症した慢性骨髄性白血病. 第4回日本血液学会関東甲信越地方会 (東京) 2016年3月19日
 72. 大木 拓也、福岡 豊、梅津 知宏、大屋敷純子 : miRNA と mRNA の統合解析における発現変化の閾値の最適化. 第55回日本生体医工学会大 (富山) 2016年4月26 - 28日
 73. Umez T, Imanishi S, Azuma K, Kobayashi C, Ohyashiki K, Ohyashiki JH. Towards exosome-based cancer therapy: rejuvenation of exosomes derived from normal bone marrow stromal cells. 5th Annual Meeting of ISEV, May 4-7, 2016, Rotterdam.
 74. ** Ohno S, Itano K, Harada Y, Asada K, Oikawa K, Kashiwazako M, Okuyama H, Kumagai K, Takanashi M, Sudo K, Ikeda N, Kuroda M: Development of novel Dicer- and Ago2-independent small hairpin RNAs. American Society of Gene & Cell Therapy(ASGCT) 19th Annual Meeting. (第19回米国遺伝子治療学会), Washington, DC, USA. May 4-9 2016.
 75. 大平 達夫, 今井健太郎, 前原 幸夫, 大谷 圭志, 前田 純一, 吉田 浩一, 萩原 優, 垣花 昌俊, 梶原 直央, 池田 徳彦 : 分子生物学研究が呼吸器外科の治療にもたらずもの 第33回日本呼吸器外科学会総会 (京都) 2016年5月12日
 76. 小濱政子、倉田 厚、藤田浩司、長尾俊孝、黒田雅彦. 卵巣奇形種の悪性度とその腫瘍血管の未熟度との相関についての免疫組織科学的検討. 第105回日本病理学会総会、仙台国際センター (仙台) 2016年5月12 - 14日
 77. 上田しのぶ、黒田雅彦 他. 乳がん幹細胞の酸化ストレス抵抗性における miR-27a の作用. 第105回日本病理学会総会、仙台国際センター (仙台) 2016年5月12 - 14日
 78. 大野慎一郎、黒田雅彦 他. 肺がんにおける Argonaute ファミリーの機能解析. 第105回日本病理学会総会、仙台国際センター (仙台) 2016年5月12 - 14日
 79. 老川桂生、黒田雅彦 他. miRNA 生成経路を欠損する肺がん細胞株の解析. 第105回日本病理学会総会、仙台国際センター (仙台) 2016年5月12 - 14日
 80. **Katagiri S, Umez T, Kobayashi C, Azuma K, Tauchi T, Okabe S, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: Clinical relevance of plasma miR-215 level in CML patients treated with imatinib 7th JSH International Symposium. May 13-14, 2016. Awajishima, Hyogo.
 81. 秦喜久美、矢那瀬紀子、水口純一郎、横須賀忠 : B 細胞の分化・機能におけるアルギニンメチル化酵素 PRMT1 の役割の解析. 第26回京都 T 細胞カンファレンス (京都) 2016年5月20 - 21日

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

82. 黒田雅彦: miRNA 補充療法の開発、第 12 回日本臨床プロテオーム研究会、東京大学山上会館 (東京) 2016 年 5 月 21 日
83. 梅津 知宏、大屋敷一馬、大屋敷純子: 多発性骨髄腫における骨髄内微小環境でのエクソソームの役割. 第41回日本骨髄腫学会学術集会 (徳島) 2016 年 5 月 28 - 29 日
84. Imanishi S, Takahashi R, Katagiri S, Ohsuga M, Umezumi T, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Teriflunomide restores 5-azacytidine sensitivity via inhibition of DNA methyltransferase. 7th JSH International Symposium. May 13-14, 2016. Awajishima, Hyogo.
85. 東 剣紅、今西 哲、大屋敷純子、梅津知宏、浅野倫代、吉澤成一郎、大屋敷一馬: 次世代シーケンサーを用いた骨髄系腫瘍における骨髄間質細胞の体細胞変異解析. 第 177 回東京医科大学医学会総会 (東京) 2016 年 6 月 4 日
86. 許 文聰、永川裕一、粕谷和彦、土田明彦、上田しのぶ、金蔵孝介、黒田雅彦: 膵臓癌患者血清中 microRNA の網羅的解析による新規 Biomarker の探索. 第 177 回東京医科大学医学会総会 (東京) 2016 年 6 月 4 日
87. 山田侑子、高梨正勝、上田しのぶ、黒田雅彦、須藤カツ子: 肺線維症に対する miR-29b 補充療法. (医学会奨励賞受賞講演) 第 177 回東京医科大学医学会総会 (東京) 2016 年 6 月 4 日
88. Tauchi T, Okabe S, Ohyashiki K: Hedgehog signaling pathway inhibitor PF-04449913 limits the self-renewal of MDS-derived induced potent stem cells (iPS): molecular mechanism. 21th Congress of European Hematology Association. June, 9-13, 2016, Copenhagen, Denmark.
89. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Sakuta J, Ohyashiki K: PPAR γ is a novel therapeutic targets in Ph-positive leukemia cells. 21th Congress of European Hematology Association. June, 9-13, 2016, Copenhagen, Denmark.
90. 小澤ひとみ、梅津 知宏、関野 知聖、吉澤成一郎、大屋敷一馬、大屋敷純子: 多発性骨髄腫細胞の浸潤様式解明を目的とした in vitro モデル実験系の構築. 第5回医薬工3大学包括連携推進シンポジウム (東京) 2016 年 6 月 18 日
91. 大木 拓也、松井 一馬、梅津 知宏、大屋敷純子、福岡 豊: 生体分子情報の網羅的解析法の開発. 第5回医薬工3大学包括連携推進シンポジウム (東京) 2016 年 6 月 18 日
92. 雨宮文恵、伊藤良和、齋藤 優、片桐誠一郎、勝呂多光子、浅野倫代、吉澤成一郎、田中裕子、藤本博昭、岡部聖一、後藤守孝、田内哲三、大屋敷一馬: JAK2-V617F 変異を有する MPN に発症した BCR-ABL1 陽性 CML。日本血液第 5 回関東甲信越学地方会 (東京) 2016 年 7 月 2 日
93. 梅津 知宏、大屋敷一馬、大屋敷純子: がん環境を標的とした治療戦略: 骨髄間質細胞由来エクソソームおよびその内包型 miRNA の役割. 第8回日本 RNAi 研究会・第3回日本細胞外小胞学会 (広島) 2016 年 8 月 31 日-9 月 2 日
94. 大野慎一郎、原田裕一郎、村上善基、黒田雅彦. 新規ヘアピン型 RNA 干渉核酸の探と機能解析. 第 8 回日本 RNAi 研究会、第 3 回日本細胞外小胞体学会 (広島) 2016 年 8 月 31 日-9 月 2 日
95. **Ohno S, Harada Y, Murakami Y, Kuroda M. Searching and functional analysis of novel hairpin-forming small RNA. The 8th JARI Annual meeting. The 3rd JSEV Annual Meeting. Hiroshima, Aug31-Sep.2 2016.

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

96. 及川恒輔、高梨正勝、佐野冬樹、黒田雅彦、村垣泰光. TLS-CHOP を発現する粘液型脂肪肉腫細胞における腫瘍関連分子経路の解析. 第 75 回日本癌学会学術総会(横浜) 2016 年 10 月 6 - 8 日
97. Oikawa K, Takanashi M, Sano F, Kuroda M, Muragaki Y. Analysis of tumor-related molecular pathways in TLS-CHOP-expressing myxoidliposarcoma cells. The 75th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. Yokohama, Oct 6-8 2016.
98. Amemiya A, Akahane D, Ito Y, Katagiri S, Asano M, Suguro T, Tanaka Y, Furuya N, Ohyashiki K: Management of splenectomy in patients with thrombopoietin receptor agonist-dependent immune thrombocytopenia. 第 78 回日本血液学会総会 (横浜) 2016 年 10 月 13 -15 日
99. Azuma K, Umezumi T, Imanishi S, Asano M, Yoshizawa S, Katagiri S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Mutation analysis of bone marrow stromal cells derived from AML and MDS. 第 78 回日本血液学会総会(横浜) 2016 年 10 月 13 -15 日
100. Imanishi S, Takahashi R, Umezumi T, Kobayashi C, Asano M, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Distinct histone modification patterns in 5-azacitidine sensitive human leukemia cells. 第 78 回日本血液学会総会 (横浜) 2016 年 10 月 13 -15 日
101. Katagiri S, Azuma K, Umezumi T, Akahane D, Wataya Y, Yoshida K, Makishima H, Ogawa S, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: Clonal evolution in AML which relapsed 15 years after BMT. 第 78 回日本血液学会総会 (横浜) 2016 年 10 月 13 -15 日
102. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Sakuta J, Ohyashiki K: Activity of dual HDAC and PI3K inhibitor, CUDC-907 against BCR-ABL-positive leukemia cells. 第 78 回日本血液学会総会 (横浜) 2016 年 10 月 13 -15 日
103. Katagiri S, Tauchi T, Saito Y, Suguro T, Asano M, Yoshizawa S, Sakuta J, Akahane D, Tanaka Y, Furuya N, Ando K, Fujimoto H, Okabe S, Gotoh M, Ito Y, Ohyashiki K: Assessment of musculoskeletal pain after tyrosine kinase inhibitor discontinuation in chronic myeloid leukemia patients. 第 78 回日本血液学会総会 (横浜) 2016 年 10 月 13 -15 日
104. Tauchi T, Okabe S, Katagiri S, Tanaka Y, Tohyama K, Ohyashiki K: Hedgehog Signaling Pathway Inhibitor, PF-04449913 Limits the Self-Renewal of MDS-Derived iPSC. 第 78 回日本血液学会総会 (横浜) 2016 年 10 月 13 -15 日
105. Umezumi T, Imanishi S, Azuma K, Yoshizawa S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH. Anti-angiogenic effect of normal bone marrow stromal cell-derived exosomes rejuvenated by miR-340. The 78th Annual Meeting of JSH, October 13-15, 2016, Yokohama.
106. 黒田雅彦: エクソソームの臨床応用、エクソソーム 2016—エクソソーム研究は医療をどう変えるか?—、中央大学駿河台記念館 (東京)、2016 年 10 月 26 日
- * * 黒田雅彦: RNA ワールドと肺がん発がん機構. (教育講演Ⅲ) 第 108 回 ACCP 日本部会定期教育講演会. 東京医科大学病院 6 階臨床講堂. (東京) 2016 年 10 月 29 日
107. 高橋諒子、今西 哲、梅津知宏、小林千晶、大屋敷一馬、大屋敷純子: アザシチジン耐性白血病細胞におけるヒストン化学修飾の役割の解明. 第 178 回東京医科大学医学会総会 (東京) 2016 年 11 月 5 日
108. 浅野倫代、梅津知宏、片桐誠一郎、小林千晶、田内哲三、岡部聖一、大屋敷純子、大屋敷一馬: 慢性骨髄性白血病におけるチロシンキナーゼ阻害薬中止後の筋骨格痛ではエクソソーム miR-140-3p の上昇がみられる. 第 178 回東京医科大学医学会総会 (東京)

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- 2016年11月5日
109. 片桐誠一郎、田内哲三、雨宮文恵、齋藤 優、勝呂多光子、浅野倫代、吉澤成一郎、作田寿理、赤羽大悟、田中裕子、古屋奈穂子、安藤恵子、藤本博昭、岡部聖一、後藤守孝、伊藤良和、大屋敷一馬：慢性骨髄性白血病におけるチロシンキナーゼ阻害剤中止後の筋骨格痛についての検討.第 178 回東京医科大学医学会総会（東京）2016 年 11 月 5 日
110. 片桐誠一郎、田内哲三、雨宮文恵、齋藤 優、勝呂多光子、浅野倫代、吉澤成一郎、作田寿理、赤羽大悟、田中裕子、古屋奈穂子、安藤恵子、藤本博昭、岡部聖一、後藤守孝、伊藤良和、大屋敷一馬：慢性骨髄性白血病におけるチロシンキナーゼ阻害剤中止後の筋骨格筋痛についての検討.第 178 回東京医科大学医学会総会（東京）2016 年 11 月 5 日
111. 浅野倫代、梅津知宏、片桐誠一郎、小林千晶、田内哲三、岡部聖一、大屋敷純子、大屋敷一馬：慢性骨髄性白血病におけるチロシンキナーゼ阻害薬中止後の筋骨格痛ではエクソソーム miR-140-3p の上昇がみられる.第 178 回東京医科大学医学会総会（東京）2016 年 11 月 5 日
112. 浅野 倫代、梅津 知宏、片桐誠一郎、小林 千晶、田内 哲三、岡部 聖一、大屋敷純子、大屋敷一馬：慢性骨髄性白血病におけるチロシンキナーゼ阻害薬中止後の筋骨格痛ではエクソソーム miR-140-3p の上昇がみられる. 第178回東京医科大学医学会総会（東京）2016 年 11 月 5 日
113. 関野 知聖、梅津 知宏、吉澤成一郎、大屋敷一馬、大屋敷純子：骨髄間質細胞が放出するエクソソーム内加齢関連 miRNA の同定と機能解析. 第178回東京医科大学医学会総会（東京）2016 年 11 月 5 日
114. 梅津 知宏、大屋敷一馬、大屋敷純子：多発性骨髄腫における骨髄内微小環境でのエクソソームの役割. 第19回癌と骨病変研究会（東京）2016 年 11 月 11 日
115. 横須賀忠：ユビキチンが形成する T 細胞抑制性シグナルソームの分子イメージング解析. 新学術領域「ユビキチンネオバイオロジー」第 3 回領域班会議（札幌）2016 年 11 月 17 日
116. Yokosuka T(招待講演), Hata K, Yanase N, Hashimoto-Tane A, Saito T : Microclusters as a signaling unit for T cell receptor endocytosis. 第 54 回日本生物物理学会大会（つくば）2016 年 11 月 25 日
117. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Ohyashiki K: Anti-leukemic effects of venetoclax on Philadelphia chromosome positive leukemia cells. 90th Annual Meeting for American Hematology society, Dec 3-5, 2016, SanDiego, USA.
118. Yokosuka T, Hata K, Yanase N, Hashimoto-Tane A, Siato T. Microclusters as a functional unit for the endocytosis of T cell receptors 第 45 回日本免疫学会総会学術集会(沖縄) 2016 年 12 月 5-7 日
119. Ohira T, Sakai K, Maehara S, Maeda J, Yoshida K, Hagiwara M, Kakihana M, Okano T, Kajiwara N, Nishio K, Ikeda N: The Feasibility of Cell-Free DNA Sequencing for Mutation Detection in Non-Small Cell Lung Cancer Was Determined by Tumor Volume. IASLC 17th World Conference on Lung Cancer, December, 5, 2016, Vienna, Austria.
120. Makino Y, Bae E, Yoon J, Mamura M, Ohira T, Kuroda M, Ikeda N. Linker-Phosphorylated Smad2 and STAT3 Induce Resistance to Tyrosine Kinase Inhibition in Lung Cancer. IASLC World Conference on Lung Cancer, December, 6, 2016, Vienna, Austria.

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

121. 大平 達夫, 坂井 和子, 前原 幸夫, 前田 純一, 吉田 浩一, 萩原 優, 垣花 昌俊, 岡野 哲也, 松林 純, 梶原 直央, 長尾 俊孝, 西尾 和人, 池田 徳彦: 肺癌手術患者に対するリキッドバイオプシーの有用性と限界 第 57 回日本肺癌学会学術集会 (福岡) 2016 年 12 月 19 日
122. Umezumi T, Imanishi S, Azuma K, Yoshizawa S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Replenishing exosomes from older bone marrow stromal cells by miR-340 inhibits myeloma-related angiogenesis. The Royal Society Scientific Meeting 2017 "Extracellular vesicles and the tumor microenvironment", January 23-24, London.
123. 横須賀忠、末永忠広、荒瀬尚: ネオ・セルフとしてのミスフォールド蛋白質解析. 新学術領域「ネオ・セルフ」キックオフシンポジウム (東京) 2017 年 1 月 31 日
124. 横須賀忠 (招待講演): イメージングが拓く免疫チェックポイント分子による T 細胞活性化の時空間的制御機構. 第 14 回日本免疫治療学研究会学術集会 教育講演 (東京) 2017 年 2 月 11 日
125. Machiyama H, Hata K, Yanase N, Hashimoto-Tane A, Siato T, Yokosuka T: Microclusters as a signaling unit for T cell receptor endocytosis. 第 27 回京都 T 細胞カンファレンス (京都) 2017 年 3 月 13 -14 日
126. 池田 徳彦: がんの低侵襲手術: 次の breakthrough は何か. 次世代がん治療推進専門家養成プランシンポジウム (東京) 2017 年 3 月 4 日
127. Makino Y, Yoom JH, Bae E, Kato M, Miyazawa K, Ohira T, Ikeda N, Kuroda M, Mamura M: Repression of Smad3 by Stat3 and s-Ski/SnoN induces gefitinib resistance in lung adenocarcinoma. American Association for Cancer Research Annual Meeting, April 2, 2017, Washington DC, USA.
128. 片桐誠一郎、田内哲三、安藤恵子、岡部聖一、後藤守孝、大屋敷一馬: 慢性骨髄性白血病において body mass index 低値は imatinib 中止後筋骨格痛と関連する. 第 114 回日本内科学会総会・講演会 (東京) 2017 年 4 月 14 - 16 日
129. 齋藤 彰、藤田浩司、山本陽一郎、裕 彰一、坂本和彦、永野浩昭、黒田雅彦: Digital Pathology を用いた肝細胞がんの形態学解析による再発予測の検討. (ワークショップ6) 第 106 回日本病理学会総会 京王プラザホテル (東京) 2017 年 4 月 27 日
130. 藤田浩司、大野慎一郎、西 洋孝、井坂恵一、黒田雅彦. 子宮頸部上皮内腫瘍病変に対する新規モノクローナル抗体の開発. (Development of Novel monoclonal antibody for cervical intraepithelial neoplasma.) 第 106 回日本病理学会総会 京王プラザホテル (東京) 2017 年 4 月 27 日
131. 池畑直樹、高梨正勝、上田しのぶ、里見貴史、渡辺正人、長谷川温、河野通秀、榎本愛、黒田雅彦、近津大地: Activation of TLR2 regulates CARD10 gene expression by miR-146a-5p in oral squamous cell carcinoma. 第 106 回日本病理学会総会 京王プラザホテル (東京) 2017 年 4 月 27 日
132. * * 大野慎一郎、原田裕一郎、村上善基、黒田雅彦: RNA 干渉核酸に働く短鎖ヘアピン RNA の探索と機能解析.(Search and characterization of novel hairpin RNAs acting on RNA interference. 第 106 回日本病理学会総会 京王プラザホテル (東京) 2017 年 4 月 28 日
133. * * 老川桂生、浅田浩太郎、大野慎一郎、黒田雅彦: miRNA 生成経路を欠損する肺がん細胞株の解析(Analysis of microRNA-defect lung cancer cell line.) 第 106 回日本病理学

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- 会総会 京王プラザホテル (東京) 2017年4月28日
134. 橋本浩次、倉田 厚、藤原正親、原 啓、名城珠希、増田芳雄、鈴木良夫、菅間 博、黒田雅彦、堀内 啓. Clinicopathologic Characteristics of solitary pulmonary capillary hemangioma. 第106回日本病理学会総会 京王プラザホテル (東京) 2017年4月28日
135. * * 三部芳裕、大野慎一郎、黒田雅彦: Mir-34aによるがん抑制遺伝子 BLU の発現制御機構.(Up-regulation of expression of BLU tumor suppressor by miR-32a.) 第106回日本病理学会総会 京王プラザホテル (東京) 2017年4月29日
136. 鶴井敏光、藤田浩司、大野慎一郎、黒田雅彦: 浸潤性乳管癌に出現する let-7 発現細胞の検討.(let-7 induced invasive phenotype of breast cancer cells.) 第106回日本病理学会総会 京王プラザホテル (東京) 2017年4月29日
137. 大平 達夫, 濱中和嘉子, 松浦 久美, 今井健太郎, 前原 幸夫, 前田 純一, 吉田 浩一, 萩原 優, 垣花 昌俊, 梶原 直央, 池田 徳彦: 肺癌に対する網羅的遺伝子解析 第117回日本外科学会定期学術集会 (東京) 2017年4月29日
138. Imanishi S, Takahashi R, Katagiri S, Umezu T, Kobayashi C, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Teriflunomide restores 5-azacytidine sensitivity via activation of pyrimidine salvage in 5-azacytidine-resistant leukemia cells. MDS symposium. May 3-6, 2017 Valencia, Spain.
139. Ohyashiki K, Saitoh Y, Imanishi S, Umezu T, Yoshizawa S, Asano M, Fujimoto H, Akahane D, Kobayashi C, Ohyashiki JH: Extracellular vesicles (EVs) released by bone marrow stromal cells show a distinct miRNA profile in high-risk MDS patients. The 14th International Symposium on MDS2017, May 3-6, 2017, Valencia.
140. Ohyashiki JH, Umezu T, Kobayashi C, Imanishi S, Asano M, Ohyashiki K: Telomeric repeat-containing RNA (TERRA) in MDS: Utility of cell-free TERRA packaged in extracellular vesicles. The 14th International Symposium on MDS2017, May 3-6, 2017, Valencia.
141. Umezu T, Imanishi S, Yoshizawa S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: A role of exosomal miR-10a in bone marrow stromal cells obtained from patients with multiple myeloma. 6th Annual Meeting of ISEV, May 18-21, 2017, Toronto.
142. 横須賀忠 (招待講演): イメージングが拓く T 細胞活性化の時空間的制御機構 -シグナルソームの視点から免疫チェックポイントを解釈する- Expert Seminar of Immunology 特別講演 (東京) 2017年5月22日
143. * * 黒田雅彦: 核酸医薬の臨床応用、第384回 CBI 学会講演会-核酸医薬-、東京工業大学キャンパスイノベーションセンター (東京) 2017年5月25日
144. 片桐誠一郎、田内哲三、大西文恵、齋藤 優、勝呂多光子、浅野倫代、吉澤成一郎、作田寿理、赤羽大悟、田中裕子、古屋奈穂子、安藤恵子、藤本博昭、岡部聖一、後藤守孝、伊藤良和、大屋敷一馬: 慢性骨髄性白血病において患者体重および body mass index は imatinib 中止後筋骨格痛の出現と関連する.第179回東京医科大学医学会総会 (東京) 2017年6月3日
145. 齋藤 優、片桐 誠一郎、勝呂 多光子、吉澤 成一郎、赤羽 大悟、藤本 博昭、後藤 守孝、伊藤 良和、大屋敷 一馬、東 剣紅、今西 哲、大屋敷 純子: 節外性 NK/T 細胞リンパ腫・鼻型における骨髄T細胞受容体再構成の意義.第179回東京医科大学医学会総会 (東京) 2017年6月3日
146. 今西 哲、大屋敷 純子、梅津知宏、小林千晶、大屋敷 一馬: クロマチン制御因子 HP1 γ

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- のアザシチジン耐性白血病細胞における役割の解明. 第 179 回東京医科大学医学会総会 (東京) 2017 年 6 月 3 日
147. 横須賀忠: イメージングからのアプローチによるネオ・セルフの解明. 新学術領域「ネオ・セルフ」第 1 回領域班会議 (大阪) 2017 年 6 月 20 日
148. Tauchi T, Okabe S, Katagiri S, Tanaka Y, Ohyashiki K: Combining effects of the SMO inhibitor and JAK1 inhibitor in MDS-derived induced potent stem cells (iPS). 22th European Hematology association. June 23-26, 2017. Madrid, Spain.
149. Ohyashiki K, Asano M, Umezu T, Katagiri S, Kobayashi C, Tauchi T, Gotoh M, Ando K, Okabe S, Ohyashiki JH: miRNA profiling of circulating extracellular vesicles in CML patients with musculoskeletal pain associated with discontinuation of tyrosine kinase inhibitors. 22th European Hematology association. June 23-26, 2017. Madrid, Spain.
150. Katagiri S, Tauchi T, Tanaka Y, Ando K, Okabe S, Gotoh M, Ito Y, Umezu T, Tadokoro K, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: Association of BCLL11 (BIM) deletion polymorphism with molecular relapse after tyrosine kinase inhibitor cessation in chronic myeloid leukemia patients with deep molecular response. 22th European Hematology association. June 23-26, 2017. Madrid, Spain.
151. Nanya Y, Takeda J, Shinozawa Y, Shiraishi Y, Okuno Y, Kataoka K, Chiba K, Tanaka H, Sanada M, Chiba S, Asou N, Kiyoi H, Imai K, Hirase C, Dobashi N, Kiguchi T, Nakao S, Ohyashiki K, Miyazaki Y, Naoe T, Makishima H, Miyani S, Ogawa S: Molecular markers predicting response to azacytidine treatment for myelodysplastic syndromes. 22th European Hematology association. June 23-26, 2017. Madrid, Spain.
152. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Ohyashiki K: Targeted strategy for ABL tyrosine kinase inhibitor resistant Philadelphia chromosome positive leukemia cells. 22th European Hematology association. June 23-26, 2017. Madrid, Spain.
153. Ohyashiki K, Asano M, Umezu T, Katagiri S, Kobayashi C, Tauchi T, Gotoh M, Ando K, Okabe S, Ohyashiki JH: miRNA profiling of circulating extracellular vesicles in CML patients with musculoskeletal pain associated with discontinuation of tyrosine kinase inhibitors. 22nd Congress of EHA, June 22-25, 2017, Madrid.
154. Umezu T, Imanishi S, Yoshizawa S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Inhibition of extracellular vesicle secretion induces apoptosis of bone marrow stromal cells: towards soil-targeted therapy in multiple myeloma. 22nd Congress of EHA, June 22-25, 2017, Madrid.
155. 横須賀忠 (招待講演): イメージングが拓く免疫チェックポイント分子による細胞活性化の時空間的制御機構. 第 32 回日本肺癌学会ワークショップ 教育講演 (旭川) 2017 年 7 月 1 日
156. 黒田雅彦: エクソソームの臨床応用 第 33 回日本 DDS 学会学術集会 招待講演 京都市勧業館 みやこめっせ (京都) 2017 年 7 月 7 日.
157. Ohki T, Umezu T, Ohyashiki JH, Fukuoka Y: A statistical integrative analysis method for small size expression data of microRNAs and genes. 39th International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, July 11-15, 2017, Korea.
158. 横須賀忠: エンドサイトーシスの障害による TCR シグナルソームの持続的形成と T 細胞制御機構の破綻. JST さきがけ「慢性炎症」継続領域会議 (修善寺) 2017 年 7 月 23 - 24 日
159. Katagiri S, Tauchi T, Tanaka Y, Ando K, Okabe S, Gotoh M, Ito Y, Ohyashiki K: Long term follow-up after tyrosine kinase inhibitors cessation in chronic myeloid leukemia with deep

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- molecular response. 日本臨床腫瘍学会（神戸）2017年7月27-29日
160. Umezumi T, Imanishi S, Yoshizawa S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Cross-talk mediated by bone marrow stromal cells-derived extracellular vesicles. Tokyo Medical University, Institute of Medical Science, 1st International Symposium “Role of Aging and Cancer”, August 28, 2017, Tokyo.
161. Saito S, Ohno S, Harada Y, Oikawa K, Kanno Y, Kuroda M: AAV-mediated miRNA-29b delivery suppresses renal fibrosis. 第9回日本 RNAi 研究会 (広島) 2017年9月1日
162. ** Sanbu Y, Ohno S, Kuroda M: Up-regulation of BLU tumor suppressor by miR-34a 第9回日本 RNAi 研究会 (広島) 2017年9月1日
163. 横須賀忠 (招待講演): イメージングが拓く免疫チェックポイント分子による T 細胞活性化の時空間的制御機構 第2回肺癌バイオカンファレンス 特別講演 (東京) 2017年9月16日
164. 横須賀忠 (招待講演): イメージングが拓く免疫チェックポイント分子による T 細胞活性化の時空間的制御機構. 上総イムノオンコロジーセミナー 特別講演 (君津) 2017年9月21日
165. Umezumi T, Imanishi S, Azuma K, Yoshizawa S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: Inhibition of extracellular vesicle secretion induces apoptosis of bone marrow stromal cells derived from multiple myeloma patients. The 76th Annual Meeting of JCA, September 28-30, 2017, Yokohama.
166. 横須賀忠 (招待講演): イメージングが拓く T 細胞活性化の時空間的制御機構 –TCR マイクロクラスターと免疫チェックポイント分子による T 細胞制御メカニズムの解明– 順天堂大学アトピー疾患研究センター学術セミナー (東京) 2017年10月12日
167. Ikeda N, Ohira T, Kajiwara N: Management of early stage lung cancer. IASLC 18th World Conference on Lung Cancer, October 17, 2017, Yokohama.
168. Shimada Y, Yenerall P, Huffman K, Avila K, Park H, Timmons B, Gao B, Deb D, Ikeda N, Minna J: The transfer of exogenous UCHL-1 via mesenchymal lung cancer exosomes to mediate phenotypic alterations of recipients. IASLC 18th World Conference on Lung Cancer, October 17, 2017, Yokohama.
169. Nakajima E, Sugita M, Furukawa K, Takahashi H, Kawaguchi Y, Ohira T, Ikeda N, Hirsch F.R, Franklin W.A: IASLC 18th World Conference on Lung Cancer, October 17, 2017, Yokohama.
170. Shigefuku S, Kudo Y, Yunaiyama D, Matsubayashi J, Park J, Nagao T, Shimada Y, Hagiwara M, Saji H*, Okano T, Kakihana M, Kajiwara N, Ohira T, Ikeda N: Prognostic factors for surgically resected non-small cell lung cancer with cavity formation. IASLC 18th World Conference on Lung Cancer, October 17, 2017, Yokohama.
171. Ohira T, Matsubayashi J, Maehara S, Maeda J, Yoshida K, Hagiwara M, Kakihana M, Okano T, Kajiwara N, Nagao T, Ikeda N: Liquid based cytology (LBC) specimens were useful for EGFR mutation test. IASLC 18th World Conference on Lung Cancer, October 18, 2017, Yokohama.
172. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Ohyashiki K: Targeting peroxisome proliferator-activated receptors: a novel strategy for BCR-ABL positive cells. 79th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. Oct 22-22, 2017, Tokyo.
173. Saito Y, Azuma K, Imanishi S, Katagiri S, Suguro T, Yoshizawa S, Akahane D, Fujimoto H,

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- Gotoh M, Itoh Y, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: Significance of T cell receptor rearrangement of bone marrow in extranodal NK/T cell lymphoma, nasal type. 79th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. Oct 22-22, 2017, Tokyo.
174. Nannya Y, Takeda J, Sato S, Shinozawa Y, Shiraishi Y, Kataoka K, Chiba K, Tanaka H, Sanada M, Chiba S, Asou N, Kiyoi H, Nakao S, Ohyashiki K, et al: Efficacy of azacitidine for TP53-mutated myelodysplastic syndromes (MDS). 79th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. Oct 22-22, 2017, Tokyo.
175. Tanaka Y, Okabe S, Tauchi T, Ohyashiki K: A novel dual inhibitor (PI3K/HDAC), CUDC-907 and combination with carfilzomib inhibits myeloma cells. 79th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. Oct 22-22, 2017, Tokyo.
176. Kubota S, Tokunaga K, Oshima M, Umezu T, Kanai A, Ton Tan K, Yang H, Iwanaga E, Asou N, Maeda T, Iwama A, Ohyashiki K, Osato M, Sashida G: RUNX2 super enhancer promotes the development of blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasia. 79th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. Oct 22-22, 2017, Tokyo.
177. Katagiri S, Tauchi T, Ohnishi A, Saito Y, Suguro T, Asano M, Yoshizawa S, Sakuta J, Akahane D, Tanaka Y, Furuya N, Ando K, Fujimoto H, Okabe S, Gotoh M, Ito Y, Ohyashiki K: Retrospective analysis of CML patients receiving second TKIs as initial therapy. 79th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. Oct 22-22, 2017, Tokyo.
178. Yoshizawa S, Umezu T, Saitoh Y, Gotoh M, Akahane D, Kobayashi C, Ohyashiki JH, Ohyashiki K: Altered exosomal miRNA expression of late onset acute graft-versus-host disease in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. The 79th Annual Meeting of JSH, October 20-22, 2017, Tokyo.
179. 横須賀忠 (招待講演): イメージングが拓く T 細胞活性化の時空間的制御機構 –シグナルソームの視点から免疫チェックポイントを解釈する– 国立がん研究センターがん免疫セミナー (東京) 2017 年 10 月 23 日
180. 小澤ひとみ、梅津 知宏、小林 千晶、東 剣虹、今西 哲、大屋敷純子: 多発性骨髄腫細胞の浸潤様式の解明を目的とした in vitro および in vivo モデル系の構築. 第179回東京医科大学医学会総会 (東京) 2017 年 11 月 4 日
181. 内山のぞみ、梅津 知宏、小林 千晶、東 剣虹、今西 哲、大屋敷純子: 多発性骨髄腫細胞の低酸素応答性に関する lncRNA の解析. 第179回東京医科大学医学会総会 (東京) 2017 年 11 月 4 日
182. 鈴木 未来、梅津 知宏、吉澤成一郎、赤羽 大悟、田中 裕子、小林 千晶、東 剣虹、今西 哲、大屋敷一馬、大屋敷純子: 多発性骨髄腫細胞の増殖に影響を与える骨髄間質由来因子の同定. 第179回東京医科大学医学会総会 (東京) 2017 年 11 月 4 日
183. 横須賀忠 (招待講演): 分子イメージングが明らかにする T 細胞の活性化制御機構– がんの免疫チェックポイント療法はなぜ効くのか? – 第 71 回東邦医学会総会 特別講演 (東京) 2017 年 11 月 9 日
184. 横須賀忠 (招待講演): イメージングが拓く T 細胞活性化の時空間的制御機構 –T 細胞シグナルソームの視点から免疫チェックポイント分子を解釈する– Meet The Specialist 2017 特別講演 (東京) 2017 年 11 月 30 日
185. Nannya Y, Takeda J, Sato S, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Kataoka K, Chiba K, Tanaka H, Chiba S, Asou N, Kiyoi H, Imai K, Hirase C, Dobashi N, Kiguchi T, Nakao S, Ohyashiki K, Miyazaki Y, Naoe T, Makishima H, Miyano S, Yoshida K, Ogawa S: Molecular signatures that predict

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- response to azacitidine treatment for myelodysplastic syndromes. ,59th ASH annual meeting and exposition. Dec 9-12, 2017, Atlanta, USA.
186. Tanaka Y, Okabe S, Tauchi T, Ito Y, Ohyashiki K: The therapeutic target of phosphoinositide 3-kinases and histone deacetylases in multiple myeloma: the novel strategies for proteasome resistant myeloma cells. 59th ASH annual meeting and exposition. Dec 9-12, 2017, Atlanta, USA.
187. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Ohyashiki K: Aurora A kinase as a promising therapeutic target in Philadelphia chromosome positive leukemia cells. 59th ASH annual meeting and exposition. Dec 9-12, 2017, Atlanta, USA.
188. Okabe S, Tauchi T, Tanaka Y, Ohyashiki K: Peroxisome proliferator-activated receptors: Targets for the treatment of Philadelphia chromosome-positive leukemia cells. 59th ASH annual meeting and exposition. Dec 9-12, 2017, Atlanta, USA.
189. Tauchi T, Okabe S, Katagiri S, Tanaka Y, Ohyashiki K: Combining effects of the SMO inhibitor and BCL-2 inhibitor in MDS-derived induced potent stem cells (iPS). 59th ASH annual meeting and exposition. Dec 9-12, 2017, Atlanta, USA.
190. Yokosuka T, Machiyama H, Hata K, Yanase N, Hashimoto-Tane A, Siato T: Microclusters as a functional unit for endocytosis of TCRs 第 46 回日本免疫学会総会学術集会 (仙台) 2017 年 12 月 12-14 日
191. Sashida G, Kubota S, Tokunaga K, Oshima M, Umezu T, Kanai A, Tan KT, Yang H, Iwanaga E, Asou N, Maeda T, Iwama A, Ohyashiki K, Osato M: RUNX2 super enhancer promotes the development of blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm. 21th RUNX meeting. Dec 12-15. Philadelphia, USA.
192. 町山裕亮、横須賀忠: T 細胞シグナルの一分子・超解像イメージング法の開発 新学術領域「ネオ・セルフ」第 2 回班会議 (淡路) 2018 年 1 月 9 - 10 日
193. 横須賀忠 (招待講演): イメージングが拓く T 細胞活性化の時空間的制御機構 –免疫チェックポイントはなぜ効くのか?– 肝免疫フォーラム 特別講演 (東京) 2018 年 2 月 10 日
194. Yokosuka T: Molecular imaging unveils spatiotemporal regulation of T cell activation by immune checkpoint receptors. The 1st International Cancer Research Symposium of Training Plan for Oncology Professionals 教育講演 (大阪) 2018 年 3 月 10 - 12 日
195. 横須賀忠 (招待講演): シグナルソームによる T 細胞活性化の時空間的制御機構—分子イメージングが明らかにする免疫チェックポイントの分子メカニズム— 第 33 回肝疾患研究部勉強会国立国際医療研究センター 特別講演 (国府台) 2018 年 4 月 11 日
196. Umezu T, Imanishi S, Yoshizawa S, Ohyashiki K, Ohyashiki JH: The role of extracellular vesicle-mediated miR-10a transfer in bone marrow microenvironment of patients with multiple myeloma. 7th Annual Meeting of ISEV, May 2-6, 2018, Barcelona, Spain. 梶原直央、前田 純一、垣花 昌俊、前原 幸夫、嶋田 善久、萩原 優、大平 達夫、杉本 昌弘、池田 徳彦. メタボローム解析による肺癌症例の早期診断と予後予測. 第 35 回日本呼吸器外科学会総会・学術集会 (千葉市) 2018 年 5 月 17 日
197. 大平 達夫、濱中和嘉子、牧野洋二郎、松浦 久美、前原 幸夫、嶋田 善久、前田 純一、萩原 優、垣花 昌俊、岡野 哲也、梶原 直央、池田 徳彦: 肺癌症例を対象とした各種検体を用いた遺伝子変異検査. 第 41 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 (東京) 2018 年 5 月 24 日
198. 横須賀忠 (招待講演): イメージングが拓く免疫チェックポイント分子による細胞活性化の

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- 時空間的制御機構 第22回日本がん分子標的治療学会学術集会 ランチョンセミナー (東京) 2018年5月17日
199. 横須賀忠: チェックポイント分子から学ぶこと 第35回日本呼吸器外科学会総会 特別企画3 (幕張) 2018年5月18日
200. 横須賀忠(招待講演): 免疫チェックポイント療法はなぜ効くのか? 国立がんセンター東病院免疫セミナー (柏) 2018年6月12日
201. 秦喜久美: 胸腺ダブルポジティブ T 細胞における c-Cbl のシグナルソーム形成と胸腺選択との相関 第28回 Kyoto T Cell Conference (京都) 2018年6月15日
202. 大野 慎一郎、老川 桂生、原田裕一郎、黒田 雅彦: miR-34 によるがん抑制遺伝子 BLU の発現誘導 (Up-regulation of BLU tumor suppressor gene by miR-34a) ポスター発表(一般) 第 107 回日本病理学会総会 ロイトン札幌、ニトリ文化ホール、さっぽろ芸文館(北海道) 2018年6月22日
203. 梅原龍之介、倉田 厚、藤田 浩司、高梨 正勝、黒田 雅彦: ヒト卵巣およびマウス胚性幹細胞由来の奇形腫内神経管を同定するマーカーとしての fascin の有用性 (Fascin: a marker for neural tubes in teratomas of human ovary & those derived from murine ES cells) ポスター発表(学部学生) 第 107 回日本病理学会総会 ロイトン札幌、ニトリ文化ホール、さっぽろ芸文館 (北海道) 2018年6月23日
204. * * 老川 桂生、大野慎一郎、黒田 雅彦: DICER1 症候群モデル細胞の樹立 (Establishment of DICER1 syndrome model cells) ポスター発表(一般) 第 107 回日本病理学会総会 ロイトン札幌、ニトリ文化ホール、さっぽろ芸文館(北海道) 2018年6月23日
205. 黒田 雅彦 (招待講演): エクソソームによる細胞治療、再生医療の応用 (Clinical application of exosome therapy) 第 107 回日本病理学会総会 ロイトン札幌、ニトリ文化ホール、さっぽろ芸文館 (北海道) 2018年6月22日
206. Tadashi Yokosuka: Advantages of single molecules imaging for neo-self. 新学術領域ネオ・セルフ第1回国際シンポジウム(淡路) 2018年7月11日
207. 横須賀忠(招待講演): 分子イメージングによる免疫チェックポイント療法を介した T 細胞の疲弊解除とその分子メカニズムの解明 第22回日本がん免疫学会総会 バイオセラピー学会合同シンポジウム (岡山) 2018年8月2日
208. 梅津 知宏、大屋敷 純子、大屋敷 一馬: 新たなソースより得られた骨髄間質細胞 KNT cells の性状解析 ポスター発表(一般) 第 36 回日本ヒト細胞学会学術集会 日本歯科大学 (東京) 2018年8月4日
209. 黒田 雅彦: Exosome opens new generation of cell therapy. 第 10 回日本 RNAi 研究会 第 5 回日本細胞外小胞学会(招待講演) グランドプリンスホテル広島 (広島) 2018年8月29-31日
210. * * 大野慎一郎、三部 芳裕、老川 桂生、原田裕一郎、黒田 雅彦: miR-34a によるがん抑制遺伝子 BLU の発現制御機構 (Up-regulation of BLU tumor suppressor by miR-34a). 第 10 回日本 RNAi 研究会 第 5 回日本細胞外小胞学会 グランドプリンスホテル広島 (広島) 2018年8月29-31日
211. * * 老川 桂生、大野慎一郎、黒田 雅彦: DICER1 症候群モデル細胞の樹立 (Establishment of DICER1 syndrome model cells). 第 10 回日本 RNAi 研究会 第 5 回日

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- 本細胞外小胞学会 グランドプリンスホテル広島 (広島) 2018 年 8 月 29 - 31 日
212. 黒田 雅彦: AI を用いた病理診断の実際. 第 26 回日本外科学会生涯教育セミナー(教育講演) ヤクルトホール(東京) 2018 年 9 月 15 日
213. Kajiwara N, Maehara S, Shimada Y, Maeda J, Hagiwara M, Okano T, Kakihana M, Ohira T, Sugimoto M, Ikeda N: Metabolomic analysis in lung cancer for screening and early detection. IASLC 19th World Conference on Lung Cancer. Sep. 25, 2018, Toronto, Canada.
214. Eriguchi D, Okano T, Kawaguchi Y, Maeda J, Hagiwara M, Kakihana M, Kajiwara N, Ohira T, Ikeda N: The importance to switch from EGFR-TKI to cytotoxic chemotherapy for EGFR mutation-positive adenocarcinoma. IASLC 19th World Conference on Lung Cancer. Sep. 26, 2018, Toronto, Canada.
215. Ohira T, Hamanaka W, Shimada Y, Maehara S, Maeda J, Hagiwara M, Kakihana M, Okano T, Kajiwara N, Ikeda N: The cytology samples and plasma specimens were feasible for the EGFR molecular testing. IASLC 19th World Conference on Lung Cancer. Sep. 26, 2018, Toronto, Canada.
216. Shimada Y, Okano T, Ohira T, Ikeda N: UCHL1 has prognostic relevance and is a therapeutic target in high-grade neuroendocrine lung cancers. 43rd ESMO (European Society for Medical Oncology) Congress. Oct, 20, 2018, Munich, Germany.
217. 横須賀忠(招待講演): がん免疫と分子イメージング先端的研究～免疫チェックポイント分子とキメラ抗原受容体 CAR の分子メカニズム～ 第 77 回日本癌学会学術総会 ランチオンセミナー (大阪) 2018 年 9 月 29 日
218. 横須賀忠(招待講演): 分子イメージングが拓く T 細胞活性化機構の解明とがん免疫応答 三重大学大学院医学系研究科セミナー (津) 2018 年 10 月 9 日
219. 黒田 雅彦: リキッドバイオプシーによる肺がん non-coding RNA の解析(ワークショップ): リキッドバイオプシーの up to date 第 59 回日本肺癌学会学術集会 京王プラザホテル (東京) 2018 年 11 月 29 日-12 月 1 日
220. 大平 達夫、濱中和嘉子、牧野洋二郎、松浦 久美、今井健太郎、嶋田 善久、前原 幸夫、前田 純一、萩原 優、垣花 昌俊、岡野 哲也、梶原 直央、池田 徳彦: リキッドバイオプシーによる遺伝子変異検査の限界. 第 59 回日本肺癌学会学術集会 (東京) 2018 年 11 月 29 日
221. 杉本 昌弘、梶原 直央、前田 純一、垣花 昌俊、池田 徳彦: 人工知能とメタボローム解析を用いたリキッドバイオプシー. 第 59 回日本肺癌学会学術集会 (東京) 2018 年 11 月 29 日
222. 梶原 直央、前田 純一、垣花 昌俊、前原 幸夫、嶋田 善久、萩原 優、大平 達夫、杉本 昌弘、池田 徳彦: Ex-Vivo と血液のメタボローム解析による新規バイオマーカーの創出. 第 59 回日本肺癌学会学術集会 (東京) 2018 年 11 月 29 日
223. 嶋田 善久、岡野 哲也、前原 幸夫、前田 純一、萩原 優、垣花 昌俊、梶原 直央、大平 達夫、黒田 雅彦、池田 徳彦: 臨床的疑問解決のための clinical sequence: 扁平上皮癌診断のための網羅的解析, 血清 exosome miRNA 解析. 第 59 回日本肺癌学会学術集会 (東京) 2018 年 12 月 1 日
224. 松林 純、大平 達夫、垣花 昌俊、嶋田 善久、前原 幸夫、前田 純一、萩原 優、

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- 岡野 哲也、梶原 直央、長尾 俊孝、池田 徳彦: 病理診断に影響を与える検体採取法. 第 59 回日本肺癌学会学術集会 (東京) 2018 年 12 月 1 日
225. **大野慎一郎、黒田 雅彦: Up-regulation of BLU tumor suppressor by miR-34 family 第 59 回日本肺癌学会学術集会 京王プラザホテル (東京) 2018 年 11 月 29 日-12 月 1 日(11/30)
226. 横須賀忠: 分子イメージングが明らかにする T 細胞活性化の時空間的制御機構～免疫チェックポイント分子と CAR～ 第 59 回日本肺癌学会学術集会 シンポジウム 12 (大阪) 2018 年 11 月 29 日
227. 老川 桂生、大野慎一郎、黒田 雅彦: Establishment of DICER1 syndrome model cells 第 77 回日本癌学会学術総会 大阪国際会議場 (大阪) 2018 年 9 月 27 - 29 日
228. **大野慎一郎、老川 桂生、原田裕一郎、黒田 雅彦: Up-regulation of BLU tumor suppressor by miR-34 family 第 77 回日本癌学会学術総会 大阪国際会議場 (大阪) 2018 年 9 月 27 - 29 日
229. **高梨 正勝、上田しのぶ、須藤カツ子、黒田 雅彦: 樹状細胞由来エクソソームは内包される分子を T 細胞に伝達して免疫機構を活性化する. 第 77 回日本癌学会学術総会 大阪国際会議場 (大阪) 2018 年 9 月 27 - 29 日
230. 梅津 知宏、今西 哲、大屋敷純子、大屋敷一馬: Extracellular vesicle-mediated miRNA transfer enhances growth and survival of multiple myeloma 第 77 回日本癌学会学術総会 大阪国際会議場 (大阪) 2018 年 9 月 27 - 29 日
231. Yokosuka Tadashi, Wakamatsu Ei, Yanase Noriko, Toyota Hiroko, Furuhashi Masae, Hata Kikumi, Machiyama Hiroaki: Dynamics of the PI3K signaling pathway induced by a T cell costimulator, ICOS. 第 47 回日本免疫学会総会 ワークショップ (福岡) 2018 年 12 月 10 日
232. Kikumi Hata, Hiroaki Machiyama, Noriko Yanase, Masae Furuhashi, Hiroko Toyota, Ei Wakamatsu, Tadashi Yokosuka: Cooperative regulation of thymic selection by receptor endocytosis and signal strength through TCR and E3 ubiquitin ligase c-Cbl microcluster formation. 第 47 回日本免疫学会総会 ワークショップ (福岡) 2018 年 12 月 10 日
233. Yanase Noriko, Machiyama Hiroaki, Wakamatsu Ei, Toyota Hiroko, Furuhashi Masae, Hata Kikumi, Mamonkin Maksim, Brenner Malcolm K, Yokosuka Tadashi: Molecular imaging of the hCD19 CAR signalosomes, "CAR microclusters". 第 47 回日本免疫学会総会 ワークショップ (福岡) 2018 年 12 月 10 日
234. Hiroaki Machiyama, Ei Wakamatsu, Noriko Yanase, Kikumi Hata, Masae Furuhashi, Hiroko Toyota, Tadashi Yokosuka: Single molecule imaging unveils a distinct difference in Lck-dynamics between CD4+ and CD8+ T cells. 第 47 回日本免疫学会総会 ワークショップ (福岡) 2018 年 12 月 10 日
235. Tadashi Yokosuka (招待講演): Molecular imaging unveils a mechanism of T cell activation regulation by immune checkpoint microclusters. The 23rd JFCR-ISCC New Antitumor Agents under Development in the US, Europe and Japan. (お台場) 2018 年 12 月 13 日
236. 横須賀忠 (招待講演): 分子イメージングが拓く T 細胞活性化の解明とがん免疫応答 — チェックポイント分子のとキメラ抗原受容体 CAR のシグナルソーム形成 — State of the Art Immuno-Oncology Forum in 愛媛 (松山) 2019 年 1 月 25 日

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

237. 町山裕亮: Lck キナーゼの構造・局在・ダイナミクスによる T 細胞シグナル制御 理研シンポジウム「細胞システムの動態と理論 XI」(和光) 2019 年 3 月 28 日
238. Tomohiro Takehara, Ei Wakamatsu Hiroaki Machiyama, Noriko Yanase, Kikumi Hata, Hiroko Toyoda, Masae Furuhashi, Hiroyuki Yasuda, Kenzo Soejima, and Tadashi Yokosuka: Programmed cell death 2 forms coinhibitory microclusters that directly attenuate T cell receptor signaling by recruiting phosphatase SHP2. AACR (アトランタ) 2019 年 3 月 30 日-4 月 3 日
239. 横須賀忠(招待講演): 分子イメージングが拓くがん免疫応答と T 細胞活性化メカニズムの解明 第75回日本口腔科学会学術集会 シンポジウム 3 (松山) 2019 年 4 月 21 日
240. Kuroda M: (招待講演) RNA-based Biomarkers. ANNUAL MEETING ISEV 2019 (Education day), みやこめっせ (京都) 2019 年 4 月 24 日
241. Takanashi M, Ueda S, Sudo K, Kuroda M: Dendritic cell derived-exosomes activate immune systems by transferring exosome involved factors to T cell. ANNUAL MEETING ISEV 2019, みやこめっせ (京都) 2019 年 4 月 27 - 28 日
242. Umezumi T, Ohyashiki K, Kuroda M: Extracellular vesicles derived from bone marrow stromal cells promote evasion of multiple myeloma cells from NK cell anti-tumor activity. ANNUAL MEETING ISEV 2019, みやこめっせ (京都) 2019 年 4 月 27 - 28 日
243. 町山裕亮、若松英、秦喜久美、矢那瀬紀子、古畑昌枝、豊田博子、横須賀忠: 末梢 T 細胞では Lck と共受容体 CD4/CD8 との協調的クラスター形成によって初期の TCR シグナルが惹起される 第29回 Kyoto T Cell Conference (京都) 2019 年 6 月 7 日
244. * * 老川 桂生: DICER1 症候群モデル細胞の解析(ポスターセッション) 第 15 回日本臨床プロテオゲノミクス研究会 アルカディア市ヶ谷 私学会 (東京) 2019 年 5 月 11 日
245. 倉田 厚、高梨 正勝、藤田 浩司、黒田 雅彦: マウス多能性幹細胞由来奇形腫を用いた chemotherapeutic retroconversion の検証. (Validation of chemotherapeutic retroconversion using murine pluripotent stem cell-derived teratomas.) 第 108 回日本病理学会総会 東京国際フォーラム (東京) 2019 年 5 月 11 日
246. * * 大野慎一郎、老川 桂生、原田裕一郎、黒田 雅彦: miR-34 family による 3p21.3 領域に存在するがん抑制遺伝子の発現誘導. (Up-regulation of tumor suppressor genes on 3p21.3 locus by miR-34a family.) 第 108 回日本病理学会総会 東京国際フォーラム (東京) 2019 年 5 月 9 日
247. 藤田 浩司、倉田 厚、刑部 安弘、黒田 雅彦: 浸潤性乳管癌における癌関連繊維芽細胞の免疫組織学的検索とその意義. (IHC search of cancer-associated fibroblasts of invasive breast cancer and its significance.) 第 108 回日本病理学会総会 東京国際フォーラム (東京) 2019 年 5 月 10 日
248. 渡辺 紀子、原田裕一郎、大野慎一郎、藤田 浩司、急式 政志、柿沼 幹男、巾澤 温子、黒田 雅彦: 小児悪性固形腫瘍における CD99 発現の網羅的検索—抗 CD99CAR-T 療法適用の観点から—(A comprehensive detection of CD99 expression in pediatric solid malignancy for CAR-T cell therapy.) 第 108 回日本病理学会総会 東京国際フォーラム (東京) 2019 年 5 月 10 日
249. 及川 恒輔、佐藤 冬樹、黒田 雅彦、尾崎 敬、村垣 泰光: 粘液型死亡肉腫において

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

- TLS-CHOP は抗腫瘍性サイトカイン IL-24 を多重機構で抑制する。(TLS-CHOP suppresses an anti-tumor cytokine IL-214 by multiple mechanisms in myxoid liposarcoma cells.) 第 108 回日本病理学会総会 東京国際フォーラム (東京) 2019 年 5 月 10 日
250. 大平 達夫、松林 純、濱中和嘉子、前田 純一、吉田 浩一、垣花 昌俊、梶原 直央、筒井 英光、長尾 俊孝、河手 典彦、池田 徳彦: 肺癌に対する Liquid-based cytology 検体を用いた遺伝子検査. 第 60 回日本臨床細胞学会総会(春期大会) (東京) 2019 年 6 月 9 日
251. Shigefuku S, Kudo Y, Yunaiyama D, Matsubayashi J, Park J, Nagao T, Shimada Y, Kajiwara N, Ohira T, Ikeda N: Prognostic factors for surgically resected non-small cell lung cancer. The 65th Annual Congress of International College of surgeons Japan Section. June 22, 2019, Tokyo.
252. 工藤 勇人、岡野 哲也、垣花 昌俊、濱中和嘉子、田中 裕紀、山田 祐揮、矢崎 裕紀、松林 純、萩原 優、本多 英俊、梶原 直央、大平 達夫、長尾 俊孝、池田 徳彦: 当院における EGFR 遺伝子変異検査に対する Liquid Biopsy と Tissue Biopsy の現状. 第 42 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 東京 2019 年 7 月 4 日
253. 黒田 雅彦: 核酸医薬品の臨床応用.(招待講演)第 3 回 バイオ医薬 EXPO、東京ビッグサイト (東京)、2019 年 7 月 4 日
254. 黒田 雅彦: エクソソームとライフサイエンス(招待講演)、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター2F(sola city Hall)(東京) 2019 年 7 月 8 日
255. 横須賀忠(招待講演): 分子イメージングが拓く T 細胞活性化機構の解明とがん免疫療法への応用 ~チェックポイント分子とキメラ抗原受容体 CAR のシグナルソーム形成~ Urology Conference at Shinanomachi (信濃町) 2019 年 7 月 2 日
256. 黒田 雅彦: The practice of pathological diagnosis using AI.(招待講演)第 38 回札幌国際がんシンポジウム、ロイトン札幌ホテル(北海道) 2019 年 7 月 12 - 13 日
257. 横須賀忠、若松英、矢那瀬紀子、秦喜久美、竹原朋宏、西航、町山裕亮: CAR マイクロクラスターによる腫瘍抗原の認識と CAR-T 細胞活性化の時空間的制御機構 第 23 回日本がん免疫学会総会 国際シンポジウム (高知) 2019 年 8 月 21 日
258. Ohira T, Kudo Y, Makino Y, Shimada Y, Maehara S, Hagiwara M, Kakihana M, Okano T, Kajiwara N, Ikeda N: Comparison of molecular testing using various specimens for non-small cell lung cancers. 2019 World Conference on Lung Cancer. Sep 8, 2019, Barcelona, Spain.
259. Osawa J, Shimada Y, Maehara S, Hagiwara M, Kakihana M, Kajiwara N, Ohira T, Ikeda N: Relationship between EGFR mutation and pathological differentiation in patients with clinical stage IA lung adenocarcinoma. 2019 World Conference on Lung Cancer. Sep 9, 2019, Barcelona, Spain.
260. 横須賀忠、若松英、矢那瀬紀子、秦喜久美、竹原朋宏、西航、町山裕亮: 多様な T 細胞シグナルソームによる腫瘍およびネオ・セルフ抗原認識の分子機構 第 92 回日本生化学会大会 シンポジウム 16 (横浜) 2019 年 9 月 18 日
261. 横須賀忠: CAR マイクロクラスターによる腫瘍抗原の認識と CAR-T 細胞活性化の時空間的制御機構. JST さきがけ「慢性炎症」継続領域会議(金沢) 2019 年 9 月 23 日

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

262. 大野慎一郎、老川桂生、原田裕一郎、黒田雅彦: がん抑制遺伝子 BLU のプロモーターから発現する lncRNA は miR-34-AGO 複合体を介して BLU の発現を誘導する. 第 78 回日本癌学会学術総会 国立京都国際会館 2019 年 9 月 27 日
263. 梅津 知宏、大屋敷一馬、黒田雅彦: がん間質細胞由来エクソソームは NK 細胞の抗腫瘍効果を抑制する. 第 78 回日本癌学会学術総会 京都(国立京都国際会館) 2019 年 9 月 27 日
264. 横須賀忠(招待講演): 分子イメージングが拓く T 細胞活性化機構の解明とがん免疫療法 第 81 回日本血液学会学術集会 モーニングセミナー (東京) 2019 年 10 月 12 日
265. 梅津 知宏、高梨正勝、大野慎一郎、黒田雅彦: アセロラ果汁由来小胞の機能解析とその有用性に関する研究. 第 6 回日本細胞外小胞学会学術集会 国立がん研究センター研究所 (東京) 2019 年 10 月 24 - 25 日
266. 横須賀忠(招待講演): 分子イメージングが拓く T 細胞活性化機構の解明とがん免疫療法 ~免疫チェックポイント分子とキメラ抗原受容体のシグナルソーム~ Scientific Exchange Meeting in 北九州 2019 (小倉) 2019 年 11 月 26 日
267. 梅津 知宏、高梨 正勝、斎藤 彰、工藤 勇人、嶋田 善久、大平 達夫、池田 徳彦、黒田 雅彦: 肺がん患者由来エクソソーム miRNA を用いた診断バイオマーカーの探索 第 60 回日本肺癌学会学術集会 大阪(大阪国際会議場) 2019 年 12 月 6 - 8 日
268. Kuroda M: Exosome as new drug delivery tools. (招待講演) APSEV 2019 Inaugural Annual Meeting & KSEV 2019 Annual Meeting, Jeju, Republic of KOREA (ICC/International Convention Center)、Nov 25th 2019
269. Yanase N, Machiyama H, Toyota H, Furuhashi M, Hata K, Takehara T, Wakamatsu E, Yokosuka T: Extrinsic and intrinsic inhibition of T cell response by co-inhibitory receptors, TIGIT and CD96. 第 48 回日本免疫学会総会 ワークショップ (浜松) 2019 年 12 月 12 日
270. Takehara T, Wakamatsu E, Machiyama H, Yanase N, Toyota H, Furuhashi M, Fukunaga K, Soejima K, Yokosuka T: Programmed cell death 2 forms coinhibitory microclusters that directly attenuate T cell receptor signaling by recruiting the phosphatase SHP2. 第 48 回日本免疫学会総会 ワークショップ (浜松) 2019 年 12 月 12 日
271. Wakamatsu E, Machiyama H, Toyota H, Furuhashi M, Hata K, Yanase N, Yokosuka T : Indirect suppression of CD4+ T cell activation by LAG3-mediated trogocytosis of MHC Class II. 第 48 回日本免疫学会総会 ワークショップ (浜松) 2019 年 12 月 12 日
272. Machiyama H, Wakamatsu E, Hata K, Yanase N, Furuhashi M, Toyota H, Yokosuka T: Different requirement of the coreceptors CD4 and CD8 for initiation of T cell activation. 第 48 回日本免疫学会総会 ワークショップ (浜松) 2019 年 12 月 12 日

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

1. 公開シンポジウム:平成 27 年度～平成 31 年度 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『RNA メタボロームによる細胞内小胞体の解明に基づいた革新的がん治療法の開発』中間報告会(平成 30 年 1 月 31 日)

【研究機器整備進捗状況】

- (1) 免疫チェックポイント分子と細胞内微小構造を可視化する超解像顕微鏡システムの確立
免疫学分野 横須賀 忠

【研究基盤形成進捗状況】

- (1)miR-34a によるがん抑制遺伝子 BLU の発現誘導機構の解析 分子病理学分野 大野 慎一郎
- (2)慢性骨髄性白血病における治療中止と extracellular microRNA 血液内科学分野 大屋 敷 一馬
- (3)Cell free DNA を用いた肺癌に対する Precision Medicine の有用性 呼吸器・甲状腺外科学分野 大平 達夫
- (4)がん微小環境における間質由来分泌小胞の役割 医学総合研究所 梅津 知宏

<これから実施する予定のもの>

1. 公開シンポジウム:平成 27 年度～令和元年度 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『RNA メタボロームによる細胞内小胞体の解明に基づいた革新的がん治療法の開発』最終報告会(令和 2 年 3 月 11 日予定の報告会は COVID-19 の影響により中止、感染の拡大状況をみながら開催予定)

14 その他の研究成果等

1. 核酸医薬に関して:ボナック社との共同開発
2. EV の単離に関しての:ニチレイとの共同研究開発
3. 大屋敷純子、梅津知宏:メディア掲載 科学新聞(2017 年 7 月 28 日)「多発性骨髄腫のガン血管新生効果証明」.
4. 横須賀忠:講演「イメージングが拓く免疫チェックポイント分子によるリンパ球調節機構の解明」姫路市医師会セミナー 特別講演(2017 年 7 月 29 日、姫路).
5. 横須賀忠:アウトリーチ活動「免疫細胞は自分と他人をどう見分けているの?」日本免疫学主催・文部科学省後援 免疫ふしぎ未来 2017 (2017 年 8 月 6 日、東京).
6. 横須賀忠(実行委員長):アウトリーチ活動 日本免疫学主催・文部科学省後援 免疫ふしぎ未来 2019 (2019 年 8 月 4 日、東京).

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

特記事項なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

特記事項なし

<「中間評価時」に付された留意事項>

特記事項なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

特記事項なし

法人番号	131054
プロジェクト番号	S1511011

16

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	18,570	6,190	12,380				
	研究費	10,036	5,126	4,910				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	6,210	2,070	4,140				
	研究費	18,349	10,357	7,992				
平成29年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	24,840	13,921	10,919				
平成30年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	24,832	24,832	0				
令和元年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	24,838	24,838	0				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	24,780	8,260	16,520	0	0	0	0
	研究費	102,895	79,074	23,821	0	0	0	0
総計	127,675	87,334	40,341	0	0	0	0	

17

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
小体創薬研究センター 免疫学分野研究室 医学総合研究所(分子腫瘍研究部門)	H28	73m ²	1	8			
		45m ²	1	7			
		88m ²	1	7			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)							
デジタルPCRシステム	H28	QS3D-PF	1	1580	h 6,210	4,140	私学助成
全反射蛍光顕微鏡	H27	Ti-E-TIRF-TMU	1	3224	h 18,570	12,380	私学助成
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況 (千円)

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	3,606		3,606
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費			
印 刷 製 本 費			
旅 費 交 通 費	40	旅 費	40
報 酬 ・ 委 託 料	2,507	委 託 料	2,507
(雑 費)	1,485	課 税 雑 費	1,485
計	7,638		7,638
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	398		398
教 育 研 究 経 費 支 出			
計	398		398
設 備 関 係 支 出 (1 個 又 は 1 組 の 価 格 が 500 万 円 未 満 の も の)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	1,959		1,959
図 書	41		41
計	2,000		2,000
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		

法人番号

131054

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	16,603		16,603
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費			
印 刷 製 本 費			
旅 費 交 通 費	6	旅 費	6
報 酬・委 託 料			
(諸 会 費)	30	課 税 諸 会 費	30
(雑 務 費)	166	雑 務 費	166
(修 理 費)	473	修 理 費	473
計	17,278		17,278
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	1,071		1,071
教育研究経費支出			
計	1,071		1,071
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書			
計	0		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		

年 度	平成 29 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	15,836		15,836
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費	1	通 信 運 搬 費	1
印 刷 製 本 費			
旅 費 交 通 費	1,009	旅 費	1,009
報 酬・委 託 料	11	課 税 報 酬 手 数 料	11
(雑 務 費)	546	雑 務 費	546
(諸 会 費)	206	諸 会 費	206
(保 守 費)	432	保 守 費	432
(公 租 公 課 費)	10	公 租 公 課 費	10
計	18,051		18,051
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	977	研 究 補 助	977
教育研究経費支出			
計	977		977
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	5,812	機 器 備 品	5,812
図 書			
計	5,812		5,812
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	643	研 究 補 助	643
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	643		643

年 度		平成 30 年度			法人番号	131054
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳				
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容		
教 育 研 究 経 費 支 出						
消 耗 品 費	18,447	消耗品費	18,447	試薬、実験器具、文具		
光 熱 水 費						
通 信 運 搬 費						
印 刷 製 本 費						
旅 費 交 通 費	100	旅費	100	国内学会旅費		
報 酬・委 託 料						
(雑 務 費)	2,355	雑務費	2,355	解析、英文校正		
(諸 会 費)	12	諸会費	12	国内学会参加費		
(保 守 費)	432	保守費	432	保守管理費		
(修 理 費)	465	修理費	465	機器備品修理費		
(雑 費)	211	雑費	211	論文投稿料		
計	22,022		22,022			
ア ル パ イ ト 関 係 支 出						
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	562		562	時給 1,460円, 年間時間数 384時間 実人数 1人		
教 育 研 究 経 費 支 出						
計	562		562			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)						
教 育 研 究 用 機 器 備 品	2,248	機器備品	2,248	スーパーエレクトロポレーター		
図 書						
計	2,248		2,248			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出						
リサーチ・アシスタント	1,685	研究補助	1,685	学内2人		
ポスト・ドクター						
研究支援推進経費						
計	1,685		1,685			

年 度		令和 元 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳				
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容		
教 育 研 究 経 費 支 出						
消 耗 品 費	17,825	消耗品費	17,825	試薬、実験器具、文具		
光 熱 水 費						
通 信 運 搬 費						
印 刷 製 本 費						
旅 費 交 通 費	53	旅費	53	国内学会旅費		
報 酬・委 託 料						
(雑 務 費)	985	雑務費	985	解析		
(諸 会 費)	30	諸会費	30	国内学会参加費		
(保 守 費)	436	保守費	436	保守管理費		
計	19,329		19,329			
ア ル パ イ ト 関 係 支 出						
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	515		515	時給 1,460円, 年間時間数 352時間 実人数 1人		
教 育 研 究 経 費 支 出						
計	515		515			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)						
教 育 研 究 用 機 器 備 品	4,994		4,994	ChemiDoc Touch MP イメージングシステム		
図 書						
計	4,994		4,994			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出						
リサーチ・アシスタント	2,130	研究補助	2,130	学内2人		
ポスト・ドクター						
研究支援推進経費						
計	2,130		2,130			